

視覚障害者の外出に関する意識調査 報告書

2019 年 3 月

特定非営利活動法人 神奈川県視覚障害者福祉協会

社会福祉法人日本盲人福祉委員会助成事業

まえがき

2016年8月東京メトロ銀座線青山一丁目駅の痛ましい事故が起こり、それがきっかけとなって、視覚障害者のホーム転落事故防止の検討と対策が進められてきました。そのあとも相次いで6件もの視覚障害者の転落死亡事故が起きています。これらの転落事故を防ぐ究極の防止対策はやはり「ホームドアを全ての駅ホームに設置する」ことであると言えます。

また、2018年12月に東京練馬区において、早朝、音響信号機があるのにも関わらず作動していない時間帯に、横断歩道を渡っていた視覚障害者が車にはねられ命を落とすという痛ましい事故も発生しています。

この他にも自転車との接触事故をはじめとして、歩行者が使用している「歩きスマホ」による事故も発生しています。

事故防止の設備を設置するには、ホームドアの場合は、設置費用が高額なこと、そして駅の構造上の問題などがあり、2017年度末での設置済みの数は725駅(日本の総駅数9,500)にとどまっています。

また、音響信号機については設置が進んでいるとは言えず、これについては近隣住民の反対があるとも聞いています。

以上のことから、いつになったら視覚障害者が安全に安心して外出できるかが今日的な課題となっています。このようなことを踏まえ、神奈川県視覚障害者福祉協会では、2018年9月と10月にわたって外出時のさまざまな事柄についてアンケート調査を実施しました。

この調査に当たっては視覚障害者約200人、晴眼者約600人を対象に調査を行いました。そして、神奈川工科大学小川研究室の協力を得て調査結果を分析し、本報告書を作成しました。そこで、外出に関してさまざまなことが見えてきました。

この調査結果を踏まえ、当会では次のような提言を行うこととしました。

- 1 国民全体に「視覚障害者の特性についての理解」を進める運動の推進
- 2 すべての駅に早期にホームドアを設置
- 3 ホームドアが設置されていない駅ホームには必ず内方線付点字ブロックの設置。
- 4 音響信号機の作動時間の延長、及び歩行時間延長用小型送信機の使用可能な信号機の増設
- 5 公共施設での音声誘導システムの常態化
- 6 市街地や駅において、視覚障害者への適切な「声かけ」運動の推進

特定非営利活動法人 神奈川県視覚障害者福祉協会
理事長 鈴木 孝幸

視覚障害者の外出に関する意識調査報告書 目次

1. 目的	1
2. 方法	1
3. 視覚障害者対象のアンケート調査結果	3
3.1 回答者の属性	3
(1) 年齢層	
(2) 性別	
(3) 手帳等級	
(4) 職業	
3.2 外出方法	4
(1) 単独外出の有無	
(2) 外出時の使用用具	
(3) 一人での交通機関の利用	
(4) 同行援護の利用	
(5) 同行援護以外での人的支援	
3.3 視覚障害者関連の設備など	8
(1) 点字ブロック	
(2) 内方線付きの点字ブロック	
(3) 点字ブロックの色	
(4) エスコートゾーン	
(5) 歩道と車道の段差	
3.4 街で聴こえる音	11
(1) 音の出る信号機	
(2) 改札口の音	
(3) ホーム上の階段の鳥の声	
(4) 地下に入る入口での音	
3.5 ホームドア	14
(1) ホームドア	

(2) ホームドアの一般の人への効果	
(3) 設置に対する行政、鉄道会社の負担	
(4) 設置に運賃の値上げに対する意識	
3.6 電車の車両	17
(1) 優先席	
(2) 携帯やスマホの電源	
(3) 女性専用車両	
(4) 弱冷房車	
(5) ドアに付いている車両番号	
(6) ドアの開閉ボタン	
(7) ドアの開閉ボタンの位置	
3.7 自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)	22
(1) 静かな車に困っている人	
(2) 静かな車に音を出す装置	
(3) 静かな車で音が出るのを止める装置	
(4) ある程度音が出る必要性	
3.8 外出時	24
(1) 声をかけられたか	
(2) 声をかけてほしいと思ったか	
(3) 断ったことがあるか、その理由	
4. 一般晴眼者対象のアンケート調査結果	28
4.1 回答者の属性	28
(1) 年齢層	
(2) 性別	
(3) 手帳等級	
(4) 職業	
4.2 障害者について	30
4.3 視覚障害者関連の設備など	31
(1) 点字ブロック	
(2) 内方線付きの点字ブロック	

- (3) 点字ブロックの色
- (4) エスコートゾーン
- (5) 歩道と車道の段差
- (6) 点字ブロック上に物を置くこと

4.4 街で聴こえる音 34

- (1) 音の出る信号機
- (2) 改札口の音
- (3) ホーム上の階段の鳥の声
- (4) 地下に入る入口での音

4.5 ホームドア 37

- (1) ホームドア
- (2) ホームドアの一般の人への効果
- (3) 設置に対する行政、鉄道会社の負担
- (4) 設置に運賃の値上げに対する意識

4.6 電車の車両 41

- (1) 優先席
- (2) 携帯やスマホの電源
- (3) 女性専用車両
- (4) 弱冷房車
- (5) ドアに付いている車両番号
- (6) ドアの開閉ボタン
- (7) ドアの開閉ボタンの位置
- (8) 位置がわからない人に気づいたことの有無
- (9) その際、どう対処したか

4.7 自動車(ハイブリッドカー・電気自動車) 46

- (1) 静かな車に困っている人
- (2) 静かな車に音を出す装置
- (3) 静かな車で音が出るのを止める装置
- (4) ある程度音が出る必要性

4.8 外出時 47

- (1) 視覚障害者を見かけたこと

(2) 声をかけたか	
(3) 声のかけ方を知っているか	
(4) 声をかけたことがあるか	
(5) 断られたことがあるか	
5. 視覚障害者と晴眼者とのアンケート結果の比較	51
5.1 視覚障害者の回答者と晴眼者の回答者の属性の特徴の比較	51
(1) 回答者の男女比の特徴	
(2) 回答者の年齢層の特徴	
5.2 視覚障害者用の設備等	51
(1) 点字ブロックについて	
(2) 内方線付きの点字ブロックについて	
(3) エスコートゾーンについて	
(4) 歩道と車道の段差について	
5.3 街で聴こえる音	53
(1) 音の出る信号機について	
(2) 改札口のピンポンという音について	
5.4 ホームドアについて	56
(1) ホームドア	
(2) 電車の車両について	
1) 優先席について	
2) 女性専用車両について	
3) 弱冷房車について	
4) 車両番号について	
5) ドアの開閉ボタンについて	
5.5 自動車について	61
(1) 静かな車に困っている人について	
6. 考察	64
添付資料	67
アンケート調査用紙	

視覚障害者の外出に関する意識調査報告書

1. 目的

近年、視覚障害者が外出するときに、さまざまなインフラ整備が行われていると共に対策が講じられているが、視覚障害者自身及び一般の人々が、それらをどの程度理解し、意識しているかについて、それぞれに対してアンケート調査を行い、今後視覚障害者のより安心・安全な外出について提案を行うことを目的とする。

2. 方法

(1) 調査項目は神奈川県視覚障害者福祉協会にて検討し、作成した。

(2) 調査は以下の方法で配布、回収した。

1)視覚障害者への調査

- ・集合調査: 視覚障害者の会議時に配布、その場で記入・回答を依頼
- ・メール調査: 各種MLを通じて記入を依頼しメールで回答を依頼
- ・留置調査: 盲学校に依頼し中学部以上の学生に回答を依頼

2)一般晴眼者への調査

- ・集合調査: 民生委員の会合などで配布、その場で記入・回答を依頼
- ・メール調査: 主として大学生にはメールにて記入・回答を依頼
- ・留置調査: 中学校・高等学校には先生の協力を得て生徒に回答を依頼
飲食店などに置き、来客者に記入・回答を依頼

(3) 配布・回収期間 2018年10月

(4) アンケート回収後の集計、分析は神奈川工科大学小川研究室にて行った。

(5) 結果の内容について神奈川県視覚障害者福祉協会と小川研究室にて検討した上で、考察をまとめた。そして、本報告書の前書きにて提言を提示した。

本調査は社会福祉法人日本盲人福祉委員会(助成金)の協賛を得て特定非営利法人神奈川県視覚障害者福祉協会が主催し、以下の団体、教育機関の協力により行われた。

・横浜市視覚障害者福祉協会 ・川崎市視覚障害者福祉協会 ・相模原市視覚障害者福祉協会
・神奈川県立平塚盲学校 ・横浜市立盲特別支援学校 ・横浜訓盲学院

なお、本報告書は視覚障害者に対しては各種媒体での報告、関係者への報告書配布、そしてホームページ等での公表を行う。

3. 視覚障害者に対する調査結果

アンケートの回収は、視覚障害者 187 件、その内、属性の性別と年齢層が未記入のものをそれぞれ除外し、結果に反映したのは、視覚障害者 183 件であった。

3.1 回答者の属性

(1) 回答者の年齢層

回答者 183 名中、10 代 5%(9 名)、20 代 3%(5 名)、30 代 3%(5 名)、40 代 12%(23 名)、50 代 20%(38 名)、60 代 31%(58 名)、70 代以上 26%(48 名)であった(図 1)。すなわち、大きく分けて 60 代以上が 57%、50 代以下が 43%であり、おおむね各世代にわたっての回答が得られた。設問の内容によって、50 代以下(おおむね成年期)と 60 代以上(おおむね高齢期)での外出時における知識や意識の差異を比較することとした。

参考までに厚生労働省が 2011 年に示した全国在宅障害児・者等実態調査結果によると、視覚障害者数は 315,500 人と推計されており、その内 60 代以上が約 78%、50 代以下が約 22%となっており、本調査回答者のほうが全国平均よりも若い視覚障害者と言える。

(2) 性別

回答者 183 名の男女比は、男性 52%(96 名)、女性 48%(87 名)であった(図 2)。したがって、男女ほぼ半数ずつから回答を得られた。設問の一部で、性別による意識の違いがあるかについても比較する。

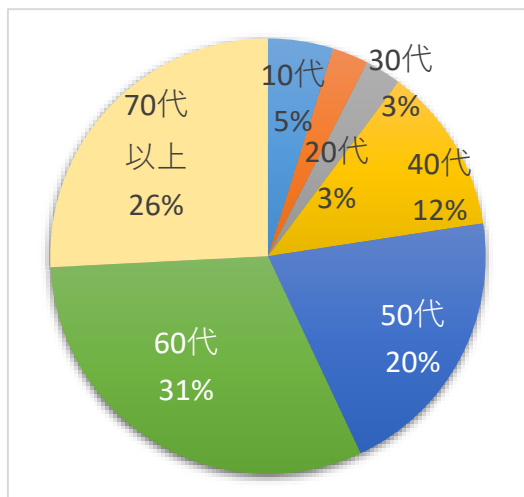


図 1 回答者の年齢層別割合(n=183)

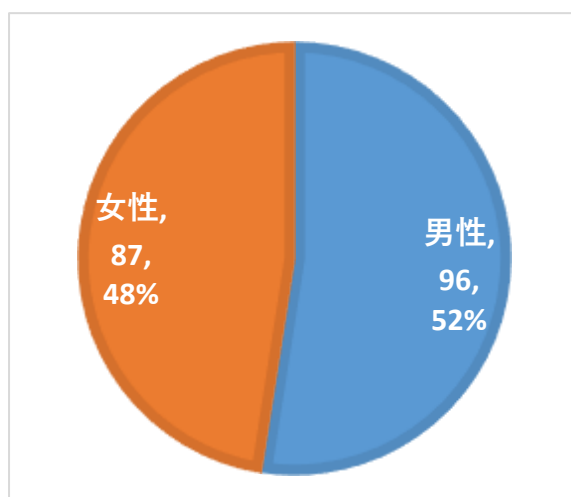


図 2 回答者の男女別割合(n=183)

参考までに、男女別に年齢層の割合をみると、男性は 50 代以下が 39%、60 代以上が 61%、また女性は、50 代以下が 47%、60 代以上が 53%であり、おおむね男女共に 40 代以上が 90%を占めている (図 3)。

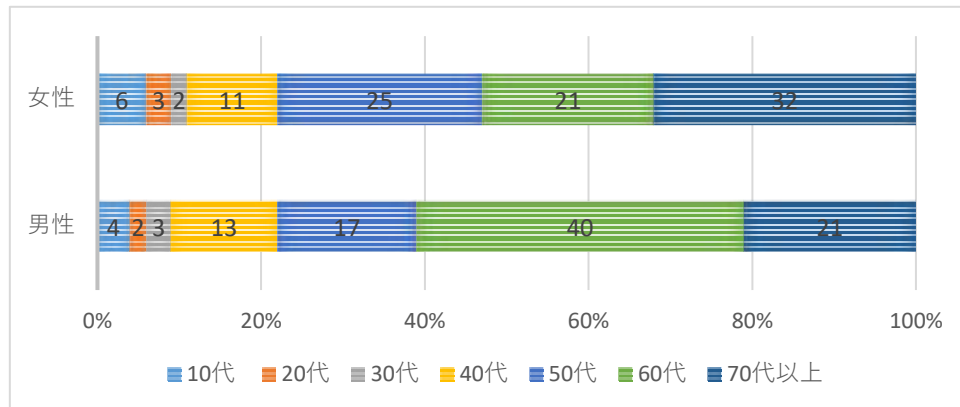


図 3 回答者の男女別年齢層(グラフ内の数値単位は%)

(3) 手帳等級

回答者 183 名中、視覚障害者の障害手帳 1 級は 69%(125 名)、2 級 22%(40 名)、3 級 1%(1 名)、4 級 3%(6 名)、5 級 4%(8 名)、6 級 0%(0 名)、手帳未所持 0%(1 名)であった(図 4)。1、2 級の所持者で 91%を占めており、回答者はほぼ重度の視覚障害者であった。

手帳について、厚生労働省の 2011 年実態調査をみると視覚障害 1 級 34%、2 級 27%であり、合わせて 61%となっている。したがって、本調査の回答者のほうが重度の視覚障害であると言える。

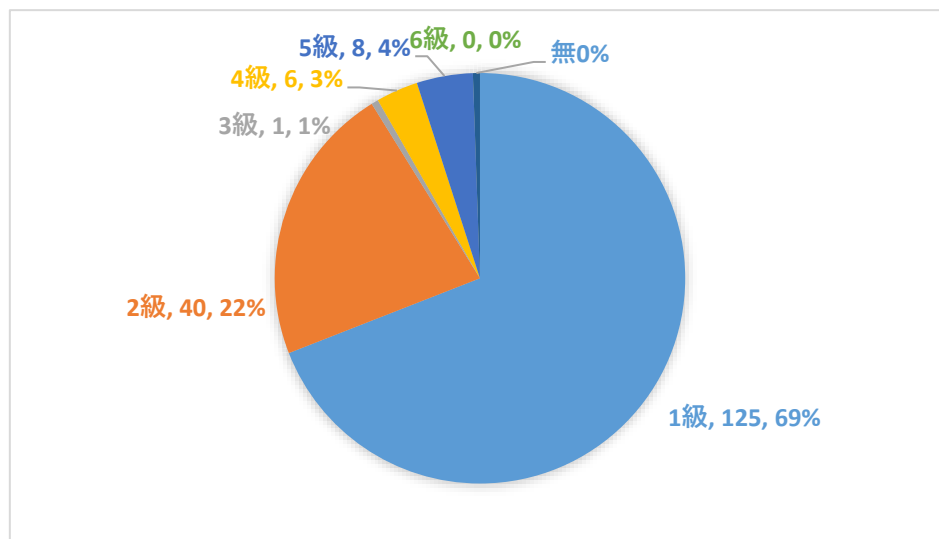


図 4 回答者の障害等級別割合(n=180)

障害等級を男女別にみても、いずれも重度視覚障害の人が多く、男性は 94%、女性は 88%が 1、2 級を占めている(図 5)。

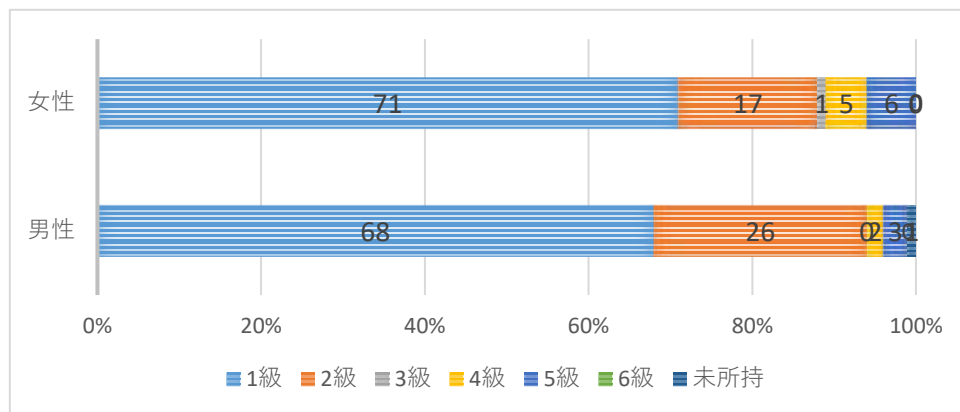


図 5 男女別障害等級の割合(グラフ内の数値単位は%)

(4) 職業

回答者 183 名を職業別にみると、中・高・大学生 9%(17 名)、専門学校生 1%(1 名)、会社員 11%(20 名)、公務員 8%(14 名)、自営業 12%(22 名)、専業主婦 14%(24 名)、無職 34%(62 名)、その他 11%(21 名)であった(図 6)。主婦、無職を合わせると 48%、学生、就労が 41%、その他 11%の割合であった。障害等級では 1,2 級が大半を占めていたが、回答からみると多くが何らかの社会的な活動を行っていると思われる。

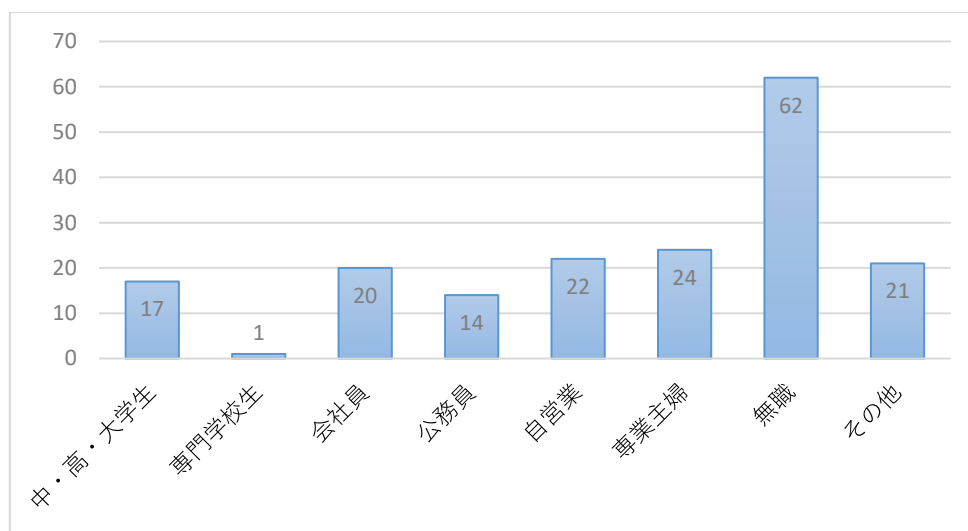


図 6 回答者の職業別人数(n=181)

3.2 外出方法

(1) 単独外出の有無

「単独で自由に外出できる」と回答した人は 61%(109 名)、「一人では外出できない」と回答した人は 39%(70 名)であった(図 7)。今回の調査では、単独外出の可否を尋ねているが、

その行動範囲を明確にして質問を設定していなかった。したがって、常時単独外出なのか、初めての目的地には同行援護などを使っているのか、分けて質問をしていなかったことから、回答者の判断に委ねられることになった。そこで、ここでの質問に対する回答からは大まかな傾向をみることになる。

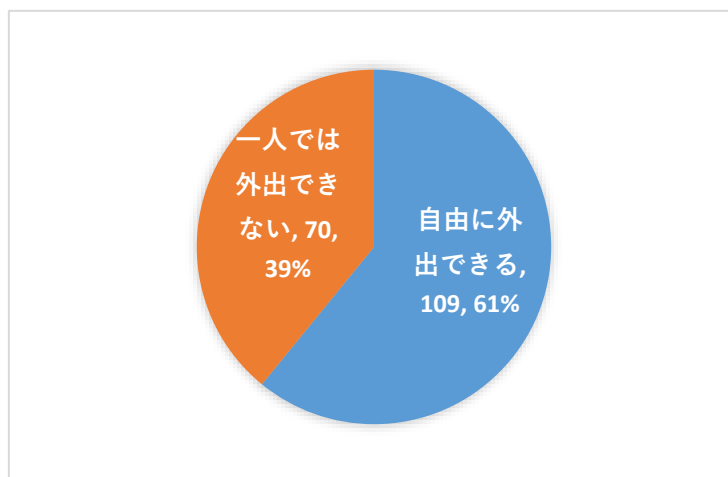


図 7 一人での外出の可否(n=179)

(2) 外出時の使用用具

一人で外出している際に使用しているものは、白杖 82%(131 名)、盲導犬 4%(6 名)、白杖や盲導犬は使わない 12%(19 名)、ソニックガイドのような歩行支援機器 2%(4 名)であった(図 8)。多くが白杖による歩行外出であるが、一部には盲導犬や歩行支援機器も使用されていることがわかる。

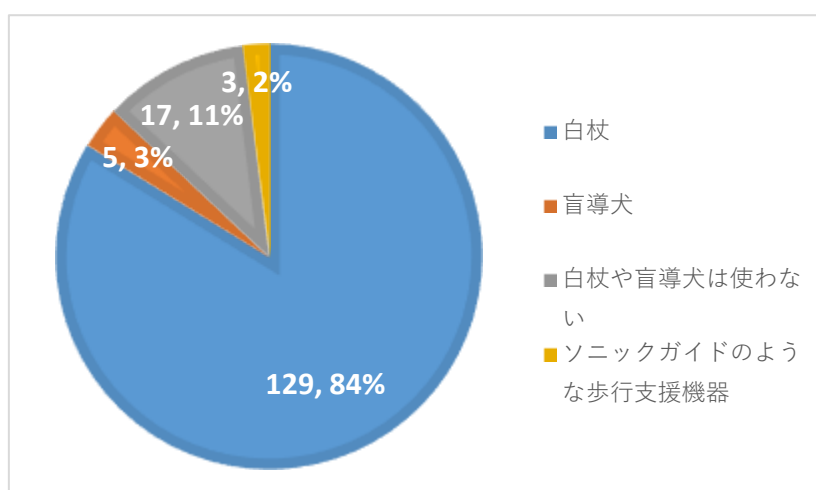


図 8 外出時の使用用具等 (n=154)

(3) 一人での交通機関の利用

「一人で交通機関を利用できるか」の問いに対する複数回答は、電車 113 名、バス 110 名、タクシー 117 名、モノレール 45 名、路面電車（江ノ電） 38 名、その他 22 名であった（図 9）。一般交通機関も使われているが、タクシー利用者も多い。タクシー券については市町村により支給枚数や使用期間の取り扱いが異なるので、市町村の支給状況と外出時の視覚障害者個々の事情に応じた使い方がされていると思われる。

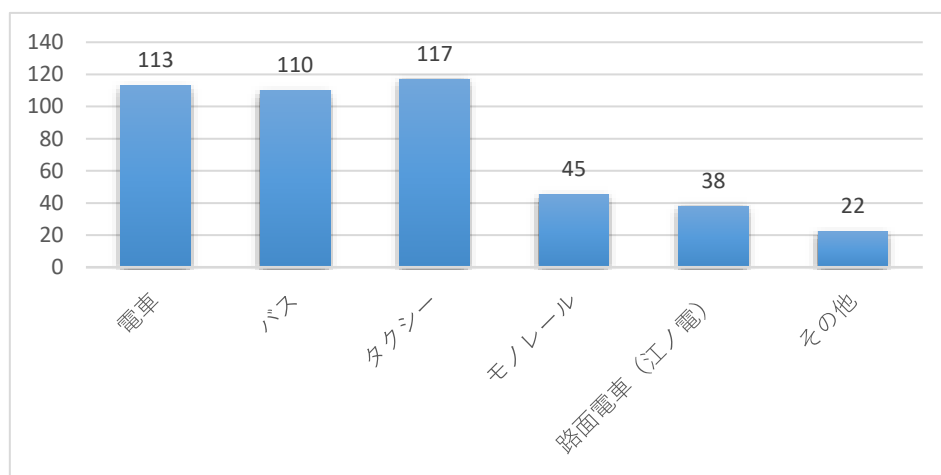


図 9 一人での外出時、使用する交通機関(複数回答)

(4) 同行援護の利用

同行援護を利用している人は、73%(133 名)、利用していない人 27%(49 名)であった（図 10）。同行援護を利用しないと回答した人の理由については、「制度を知らない」が 14 名、「使いたくない」12 名、「他の制度を利用している」12 名であった(図 11)。

同行援護は、2011 年より実施されており、代筆、代読を含む援助として、かつての移動支援の制度よりも利用しやすい内容となっている。今回の調査でも、回答者の 6 割は単独外出できると回答しているが、併せて同行援護も利用していると推定できる回答数となっている。すなわち、目的地などによって単独外出と同行援護利用とを使い分けていることが推測される。

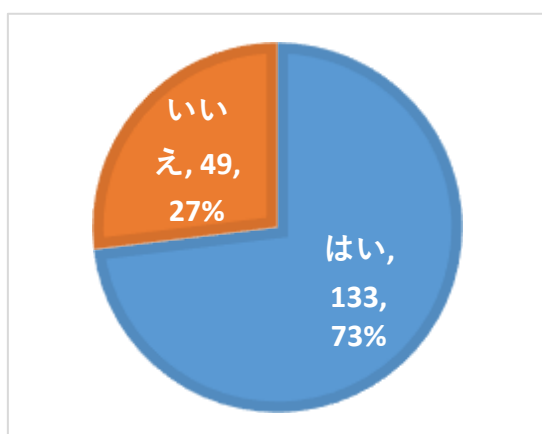


図 10 同行援護の利用割合(n=182)

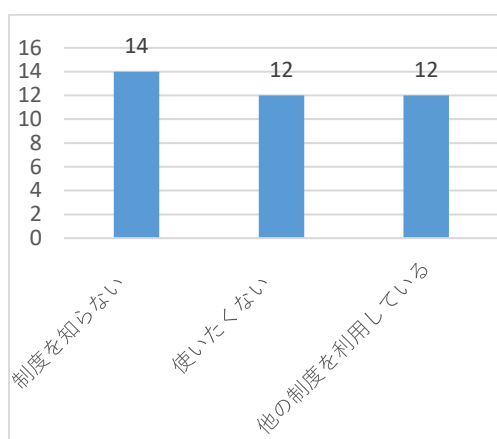


図 11 同行援護を利用しない理由

世代別にみる同行援護の利用率をみると、高齢者のほうが若干多い結果となっている(図 12)。

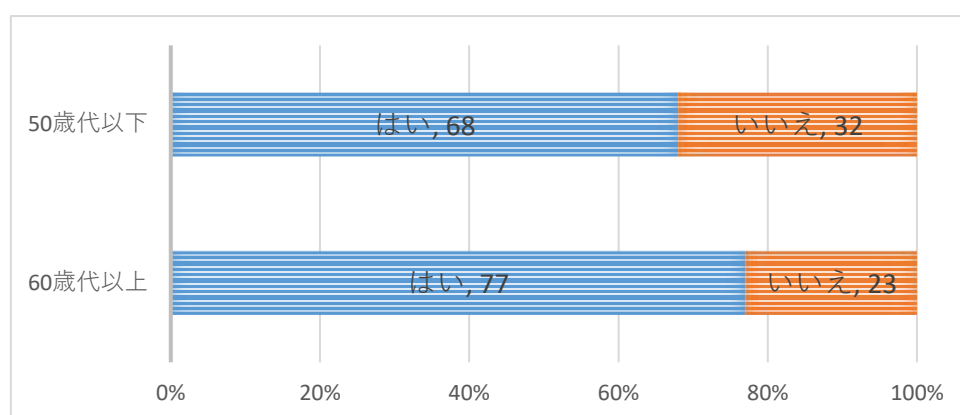


図 12 世代別の同行援護を利用している割合(グラフ内の数値単位は%)

(5) 同行援護以外での人的支援

「同行援護制度以外で外出する場合、どのような人的支援を受けているか」の問いに対する回答は、家族 129 名、移動支援 28 名、ボランティア 66 名、視覚障害の無い友人 86 名、視覚障害のある友人 58 名、その他 21 名という結果であった(図 13)。家族と一緒に外出する割合が高いことがわかると共に、話題や趣味、相性などから気楽に外出するにはボランティアや友人という割合も多くを占めている傾向が見られた。また、制度的には同行援護が優先されるが、視覚障害者は移動支援も使えるので市町村のサービス需要によってこちらのサービスを活用する場合もみられている。

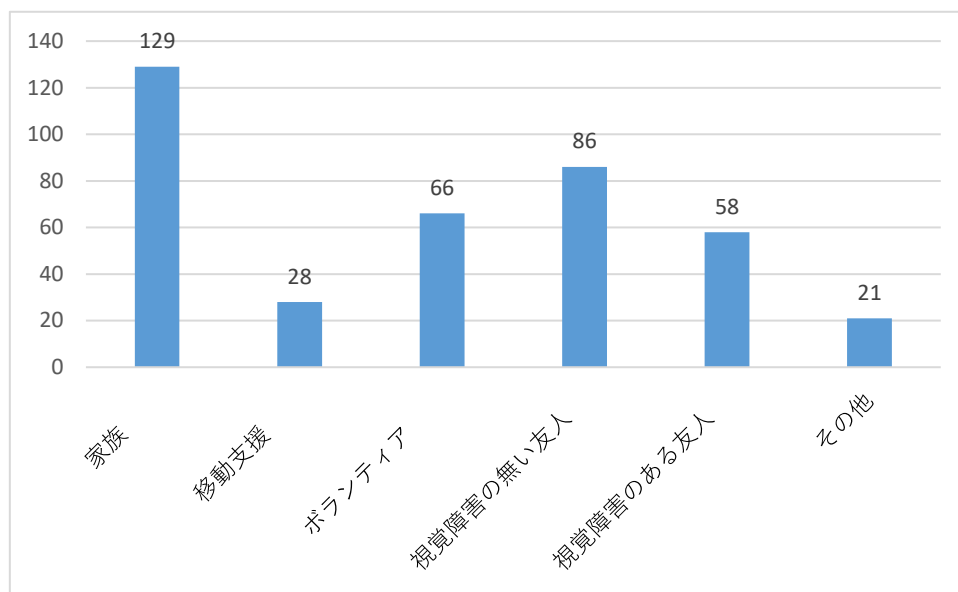


図 13 同行援護制度以外で外出する場合の支援者（複数回答、単位：人数）

3.3 視覚障害者関連の設備など

(1) 点字ブロック

点字ブロックについて知っているか、については回答者 179 名全員が知っていると答え、知らないと回答した人は 0 人であった。

点字ブロックは、1965 年に三宅精一氏によって考案され名づけられており、1967 年には岡山県立盲学校近くの国道に初めて設置されて以来、50 年以上経過している。色については弱視者にもわかる黄色を岩橋英行氏が提案し実行されたといわれている。2001 年には日本工業規格（JIS）において規格化され、現在では日本全国に普及しているため、今回のアンケート調査でも視覚障害者、晴眼者共によく知られている。

(2) 内方線付きの点字ブロック

「ホームの内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックを知っているか」の問いでは、「知っている」との回答が 85%(152 名)で、「知らない」との回答が 15%(27 名)であった(図 14)。世代別にみると 50 代以下のほうが若干知っている割合が多かった(図 15)。いずれにしても、おおかたの視覚障害者が内方線を認識し、白杖での確認を行っていることが想定される。

この内方線付きの点字ブロックについては、視覚障害者のホームからの転落事故対策として、国土交通省が 2017 年にバリアフリー基準に関する省令の改正に伴い、ホーム側に線状の突起を付けた内方線付きブロックと明記することになったとされている。

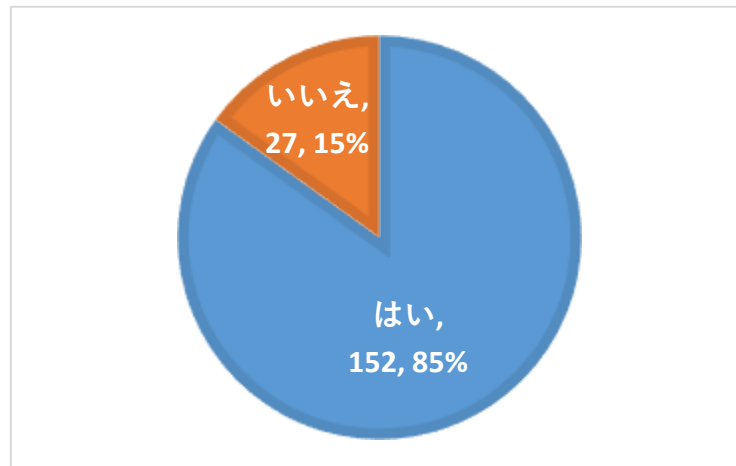


図 14 内方線を知っている割合(n=179)

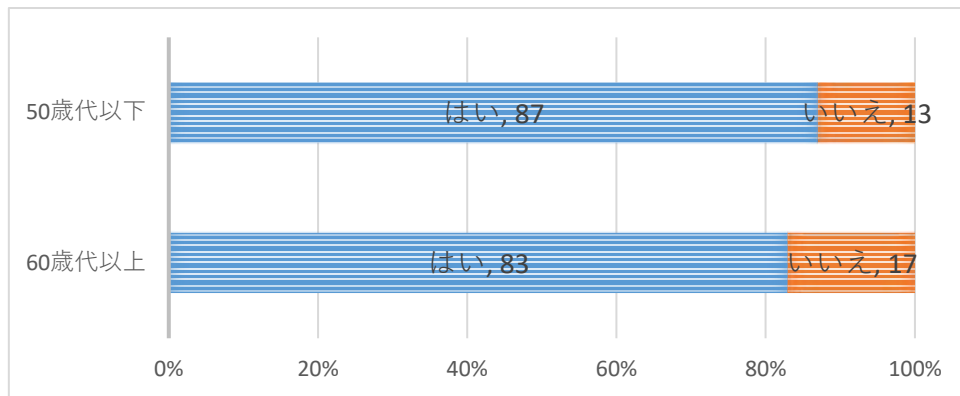


図 15 世代別の内方線を知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

(3) 点字ブロックの色

点字ブロックや内方線付き点字ブロックの色が黄色だということについては、「知っている」が 87%(154 名)であり、「知らない」が 13%(23 名)であった(図 16)。

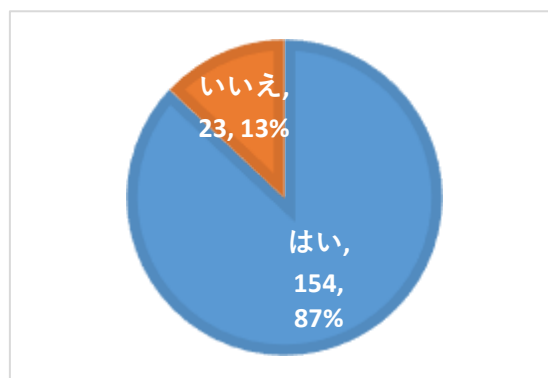


図 16 内方線付き点字ブロックが黄色と知っている割合(n=177)

(4) エスコートゾーン

横断歩道にある「エスコートゾーン」については、「知っている」との回答が 80%(143 名)、「知らない」が 12%(21 名)、「わからない」が 7%(12 名)であった(図 17)。

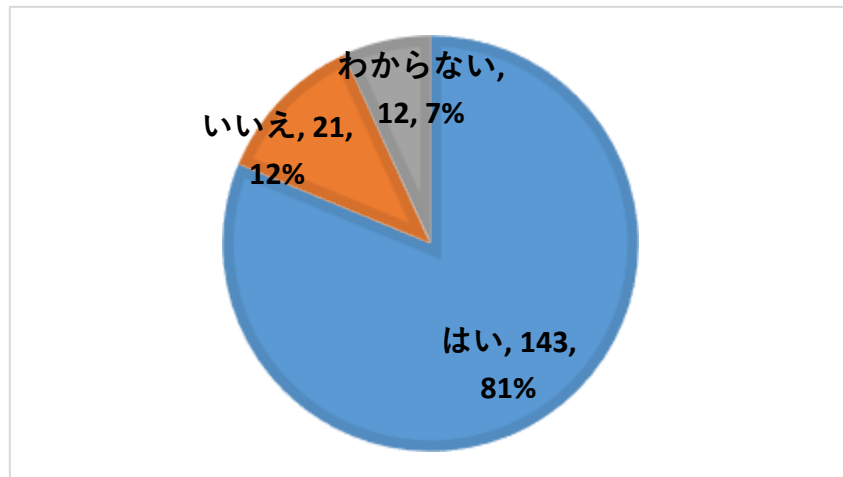


図 17 エスコートゾーンを知っている割合(n=176)

世代別にみると 60 代以上のほうが、50 代以下よりも知っている割合が高くエスコートゾーンを利用した経験が多いことが想定される(図 18)。

このエスコートゾーンとは道路横断帯の通称で、それまで一部地域で敷設されてきたエスコートゾーンを、2007 年に警察庁が、道路を横断する視覚障害者の安全性と利便性を高めるために設置指針を定め、その後次第に普及してきている。

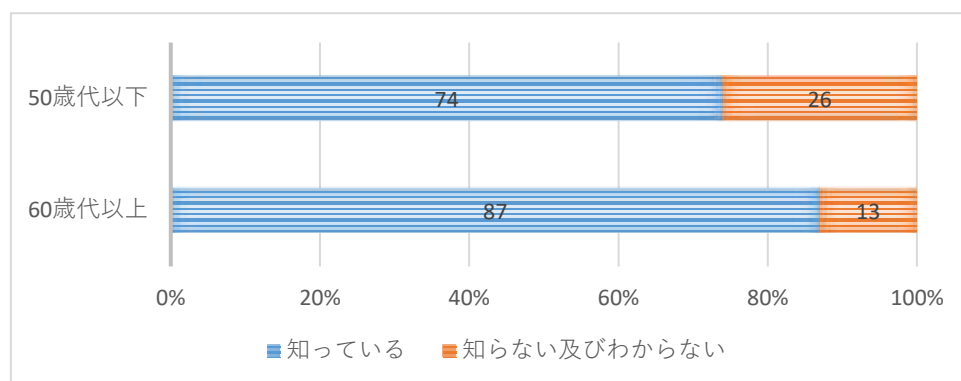


図 18 世代別にみるエスコートゾーンを知っている割合

(5) 歩道と車道の段差

「歩道と車道の段差は必要と思うか」の問いには、「必要」86%(153 名)、「必要ない」が 5%(9 名)、「わからない」が 9%(16 名)であった(図 19)。

神奈川県は、国のバリアフリー法に基づき「まちづくり整備ガイドブック」を出している。その中で、2002 年版においても、また 2009 年版においても、段差は 2cm を標準として「セイフティブロック」と名づけている。国は 2018 年にバリアフリー法の再改正を行っているが、この歩道と車道の段差に関する基準については特段の変更は行われていない。

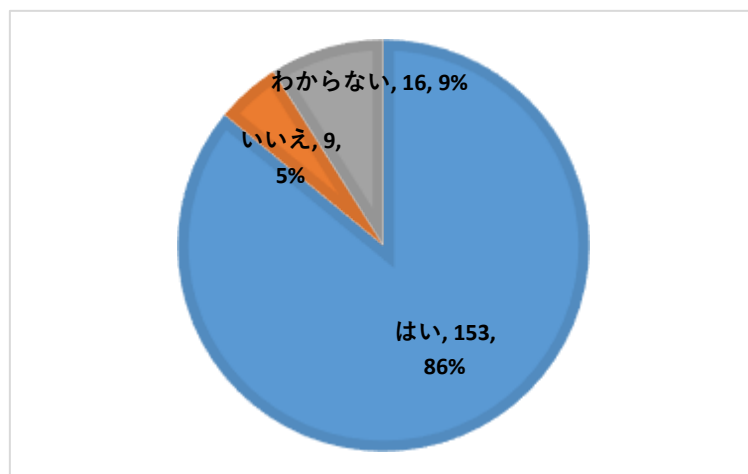


図 19 歩道と車道の段差を必要と思う割合

3.4 街で聴こえる音

(1) 音の出る信号機

「音の出る信号機を知っているか」の問いには、99%(178 名)が知っていると回答し、1%(1 名)が「知らない」と答えており、ほぼ全ての視覚障害者は知っていると言える(図 20)。

警察庁のホームページによれば、2017 年 3 月末現在、歩行者用信号の青時間帯に音を出して横断歩行者に知らせるもの(視覚障害者用付加装置と言われている)は、全国で 19,500 基(メロディ式約 340 基、擬音式約 19,100 基)が設置されており、約 98%が擬音式となっている。また、歩行者用青信号の開始をチャイム等で横断歩行者に知らせるもの(音響式歩行者誘導付加装置)は、同じく 2017 年 3 月末現在に、全国で約 3,400 基が設置されている。設置場所の基準は、視覚障害者の利用頻度が高い、視覚障害特別支援学校、リハビリテーションセンター、役所などの公共施設を含む地域に優先的に設置されている。

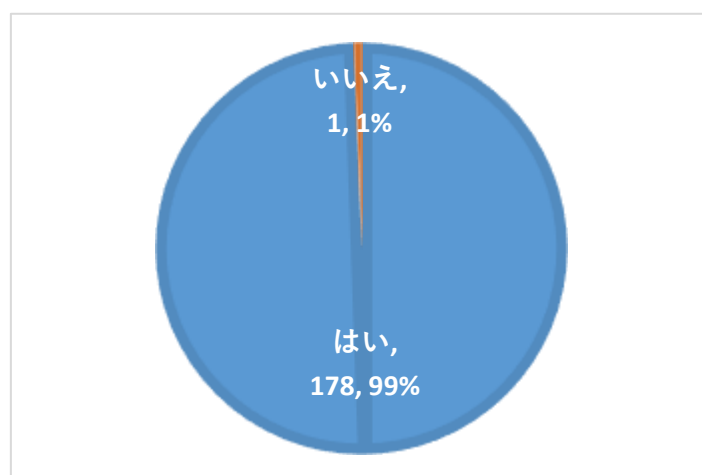


図 20 音の出る信号機を知っている割合(n=179)

知っていると答えた方に「これらの音をうるさいと思うか」を尋ねたところ、95%(167名)は「いいえ」と回答し、「うるさいと思う」は5%(9名)であった(図 21)。若干ではあるが視覚障害者の中でもうるさいと感じていることになり、次の質問で想定されるのは音の大きさについて触れているのかもしれない。

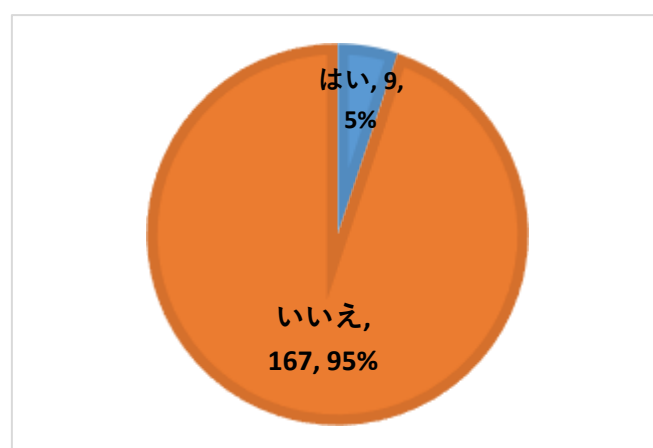


図 21 音の出る信号機がうるさいと思う割合(n=176)

音の出る信号機がうるさいと回答した方に、その理由を尋ねたところ、「必要だったら仕方ない」12名、「音の大きさにもよる」5名、「音は必要ない」1名という結果であった(図 22)。

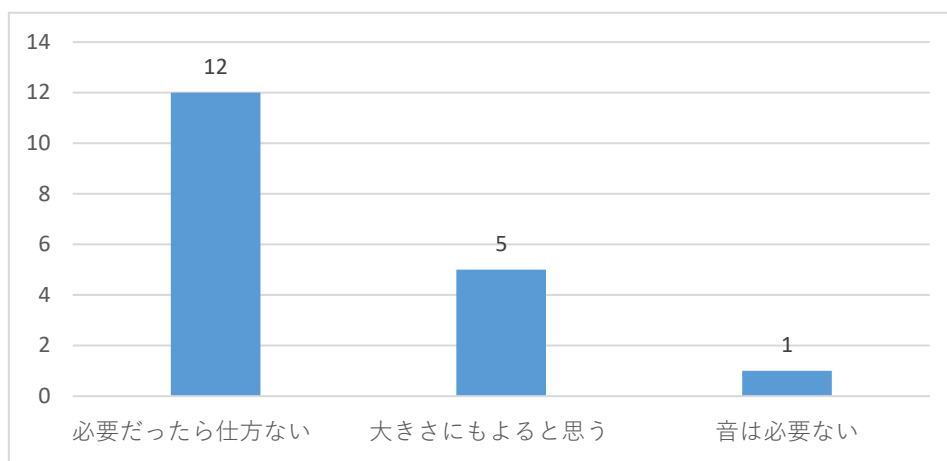


図 22 音の出る信号機がうるさいと回答した方の意見(数値は回答数)

(2) 改札口の音

「改札口でピンポンと鳴る音に気づいているか」の問いに対しては、97%(176 名)が「はい」と回答し、3%(6 名)が「いいえ」と回答しており、ほとんどの人が認識している(図 23)。

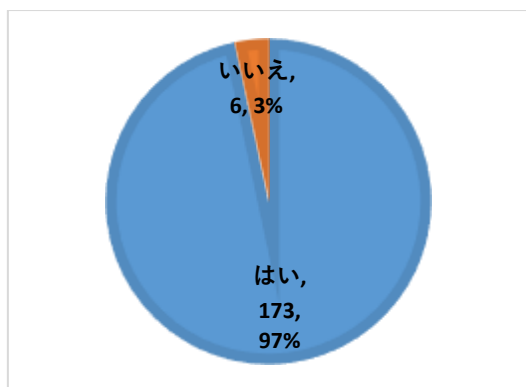


図 23 改札口でピンポンとなる音に気づいている割合(n=179)

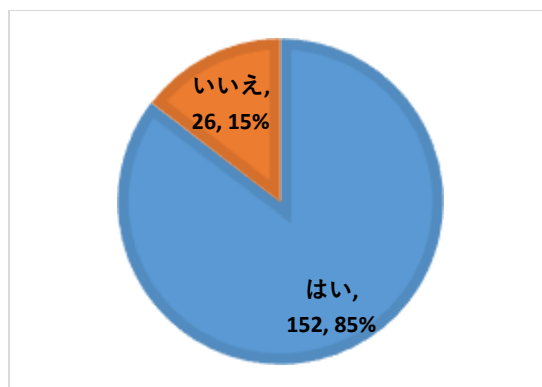


図 24 ホーム上の階段の鳥の声に気づいている割合(n=178)

(3) ホーム上の階段の鳥の声

「ホーム上の階段の鳥の声に気づいているか」については、「はい」が 85%(152 名)、「いいえ」が 15%(26 名)であった(図 24)。改札口での音に対して、若干、認識している割合が減っている。

(4) 地下に入る入口での音

「地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいているか」の問いには、「はい」が 61%(106 名)、「いいえ」が 39%(69 名)であった(図 25)。これは外出場所の経験に基づくものであり、そうした場所に出向いていない事例も多いと思われ、気づいていない割合は約 4

割を占めていた。

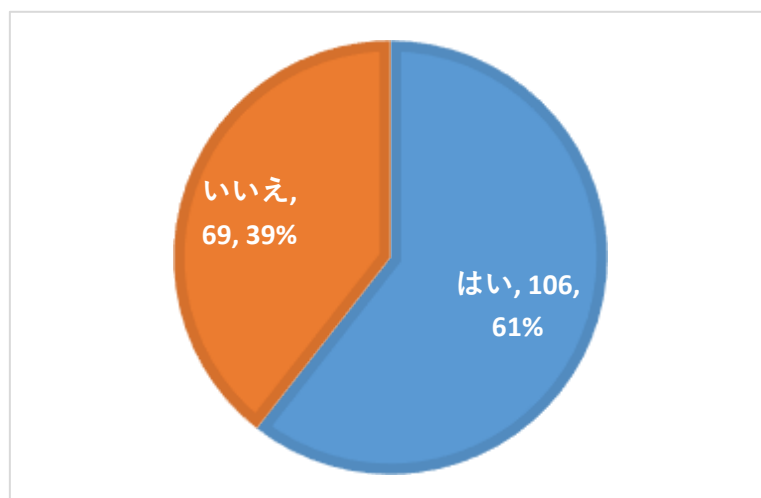


図 25 地下の入口で音がなっていることに気づいている割合(n=175)

なお、上記のように駅に関する音サインは、「移動支援用音案内」の国内規格として JIS T0902(高齢者・障害者配慮設計指針－公共空間に設置する移動支援用音案内)として聞き取りやすさの特性の基に流されている。

3.5 ホームドア

ホームドアは、1974 年に国鉄等が移動新幹線の熱海駅に設置した可動式ホーム柵が国内初と言われている。同駅は土地が狭く退避線が設置できず、列車の通過時に風による危険な状態が起きることから設置された。その後、徐々にホームドアを設置する駅が増えてきており、1981 年に開業した神戸新交通ポートアイランド線は初の全駅に設置され、その後、1991 年に開業した東京メトロ南北線も全駅設置となっている。2006 年のバリアフリー新法では、車両の乗降口が一定している等の要件に該当するプラットホームではホームドアまたは可動式ホーム柵を設置することが移動円滑化基準に追加されている。2017 年には全国で 725 駅に設置されているが、ちなみに日本の総駅数は 9,500 駅である。

視覚障害者の間でホームドアが話題となるのは、近年、視覚障害者の転落死亡事故が起きていることによる。国土交通省の「ホームからの転落に関する最近の状況」(2016 年)によれば、視覚障害者の転落件数は、2012 年に 91 人、2013 年に 74 人、2014 年に 80 人、2015 年に 94 人という数字が示されている。視覚障害者の転落死亡事故は、2016 年以降 2018 年までに 7 件となっている。したがって、安全対策に関して急務の課題となっている。

(1) ホームドア

「ホームドアを知っているか」については、「はい」98%(174 名)、「いいえ」が 2%(4 名)

となっており、ホームドアの設置率はまだ低いものの、知識としては、おおかたがもっていることがわかる(図 26)。

なお、「ホームドアは必要と思うか」についての問いでは、97%(174 名)が必要、1%(1 名)が不必要、「わからない」が 2%(4 名)であった(図 27)。

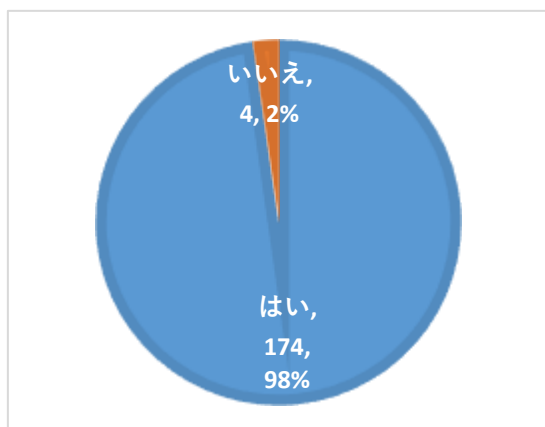


図 26 ホームドアを知っている割合(n=185)

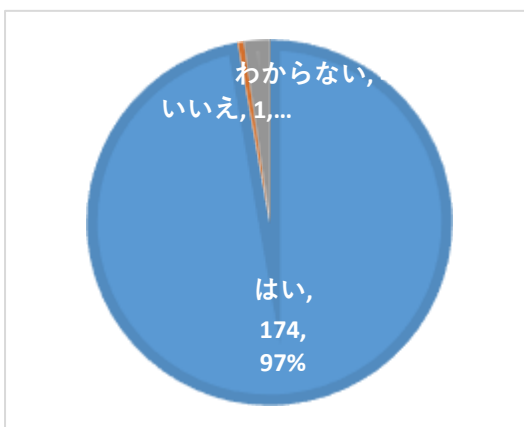


図 27 ホームドアを必要と思う割合(n=179)

(2) ホームドアの一般の人への効果

「ホームドアは一般の人にも役立つと思うか」については、「思う」が 92%(166 名)、「思わない」が 1%(2 名)、「わからない」が 7%(12 名)であった(図 28)。最近、ホーム上でのスマホ歩きや飲酒による歩行の乱れなど、線路上への転落の事例も多く、視覚障害者のためというよりも全ての人にとって安全を確保する上で必要という認識であると思われる。

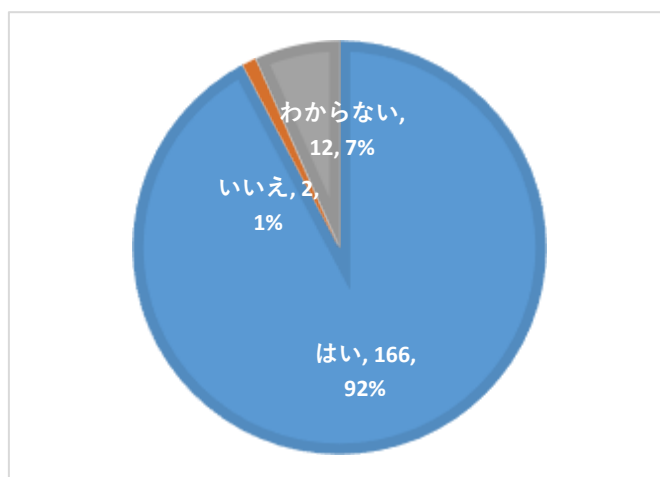


図 28 ホームドアは一般の人にも役立つと思う割合(n=180)

(3) 設置に対する行政、鉄道会社の負担

ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していること

について知っているか否かを問うと、「知っている」が 85%(154 名)、「知らない」が 15%(28 名)であった。

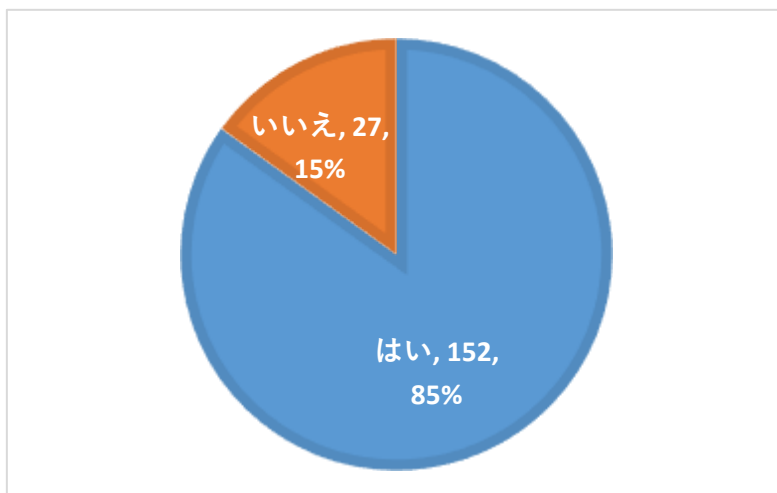


図 29 設置に、国・市町村・鉄道会社が負担していることを知っている割合(n=179)

(4) 設置に運賃の値上げに対する意識

「ホームドア設置のために運賃が上がってもかまわないか」について問うと、「はい」は 37%(65 名)、「いいえ」は 14%(24 名)、「金額にもよる」は 49%(86 名)であった(図 30)。「はい」と「金額にもよる」を合わせると 86%がホームドアについて前向きな考えを示していることがわかる。

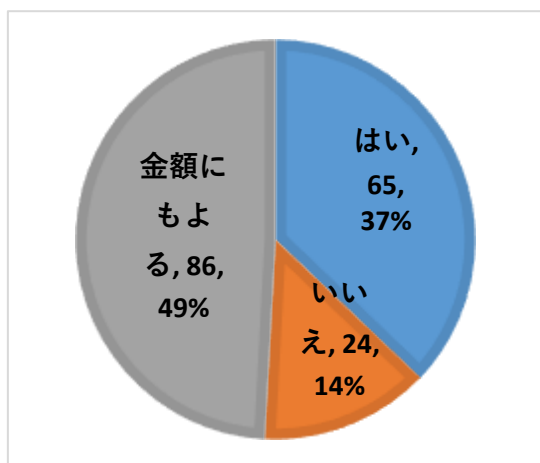


図 30 設置の運賃値上げの可否割合(n=175)

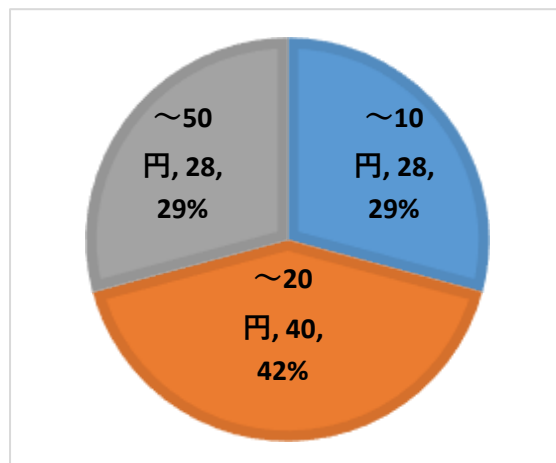


図 31 値上がりの許容金額(n=96)

金額にもよると答えた方 98 名に対して、「いくらまでなら運賃が上がってもよいか」を尋ねたところ、「10 円以下」が 29%(28 名)、「20 円以下」が 42%(40 名)、「50 円以下」が

29%(28 名)であった (図 31)。

3.6 電車の車両

(1) 優先席

「優先席のある場所を知っているか」については、「知っている」が 72%(131 名)、「知らない」が 28%(50 名)であった (図 32)。これは、路線や車両によって優先席の場所が異なり、それは知らないと解釈したかもしれない。

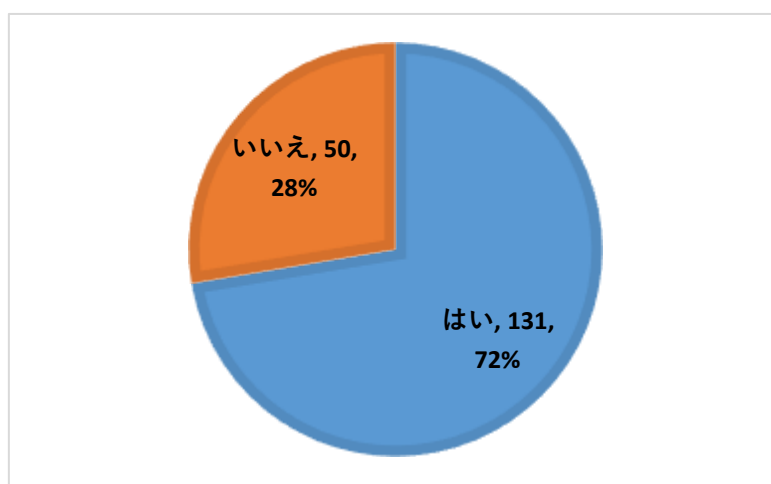


図 32 優先席の場所を知っている割合(n=181)

(2) 携帯やスマホの電源

「優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切るか」の問いには、「はい」 22%(39 名)、「いいえ」 54%(97 名)、「どちらとも言えない」 25%(45 名)であった (図 33)。基本的には切る人は少ないことがわかる。ただし、これはペースメーカー使用者に対する配慮としてかつては車内放送でも「電源を切ってください」と呼び掛けていたが、最近は鉄道会社によって扱いが異なっていることも影響しているかもしれない。

ちなみに、JR 西日本はじめ関西 25 社は、2014 年 7 月より「優先座席付近では、混雑時には携帯電話の電源をお切りください」というアナウンスに変更されており、JR 東日本等の東日本の鉄道 37 社も 2015 年 10 月より同様の放送に変更されている。これは、携帯電話の電波出力がかなり下がっていることと、ペースメーカーの技術進歩により電波の影響を減らすシールド性能の向上、干渉電波に耐えられるようになっているので、誤作動を起こす恐れがほとんど無くなっていることによる。

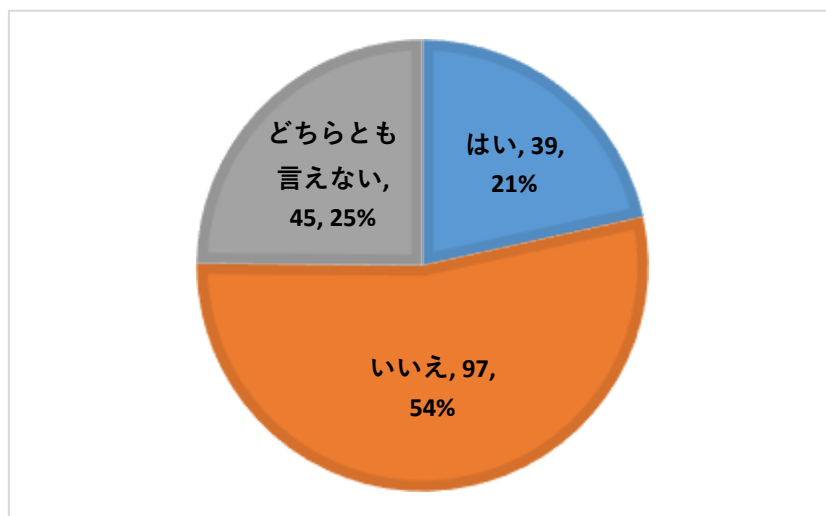


図 33 優先席付近で携帯やスマホの電源を切る割合(n=181)

(3) 女性専用車両

「女性専用車両は何両目か知っているか」については、「知っている」39%(71名)、「知らない」61%(109名)であった(図 34)。

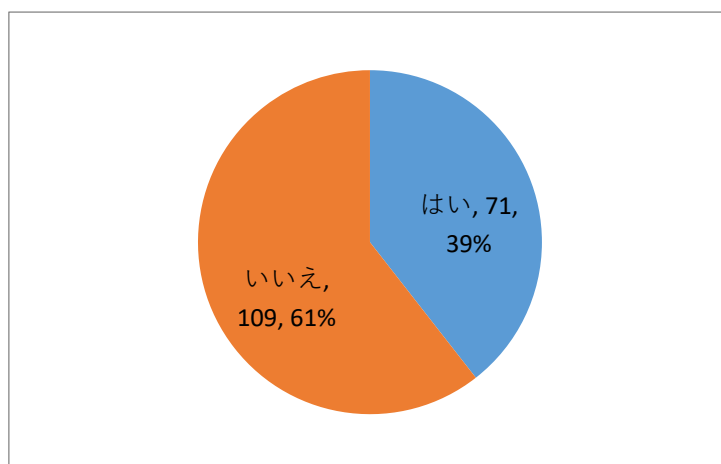


図 34 女性専用車両は何両目か知っているか否かの割合(n=180)

この質問を、視覚障害者の男女別に分けてみると実は全く同率で知っている人のほうが少ないことがわかり、女性専用車が障害者利用を認めているが、特段に関心をもっているわけではないことが推測される(図 35)。

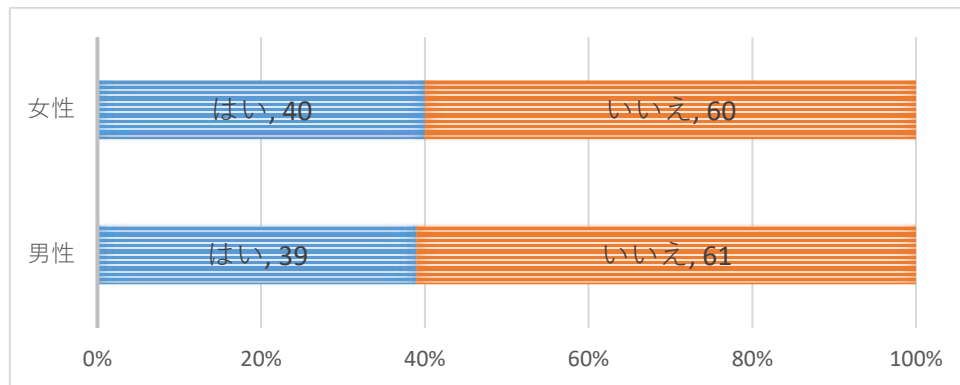


図 35 女性専用車両は何両目か知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

(4) 弱冷房車

「弱冷房車は何両目かを知っているか」については、「知っている」が 22%(40 名)、「知らない」 78%(144 名)であった(図 36)。

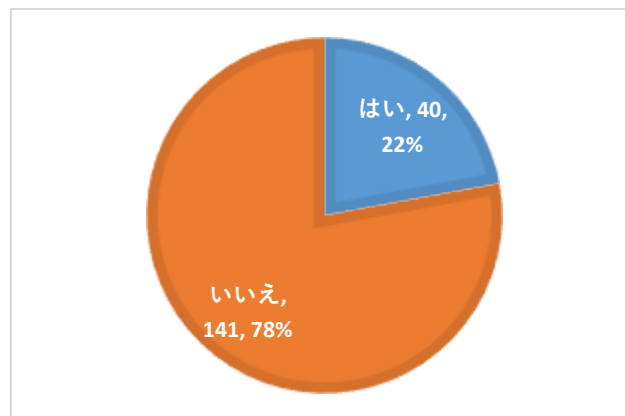


図 36 弱冷房車は何両目か知っている割合(n=181)

(5) ドアに付いている車両番号

「ドアに付いている車両番号を知っているか」の設問には、「知っている」が 72%(129 名)、「知らない」 28%(50 名)であった。車両の位置を知って、下車位置を想定しての行動をとっている人もいるが、必ずしもすべてがその表示情報を活用しているわけではない。

なお、この車両番号とドア番号表示の形状や貼り付け位置の高さなどは鉄道会社によって異なっているので、気づかなかつたり、うまく触読できなかつたりする場合が考えられる。

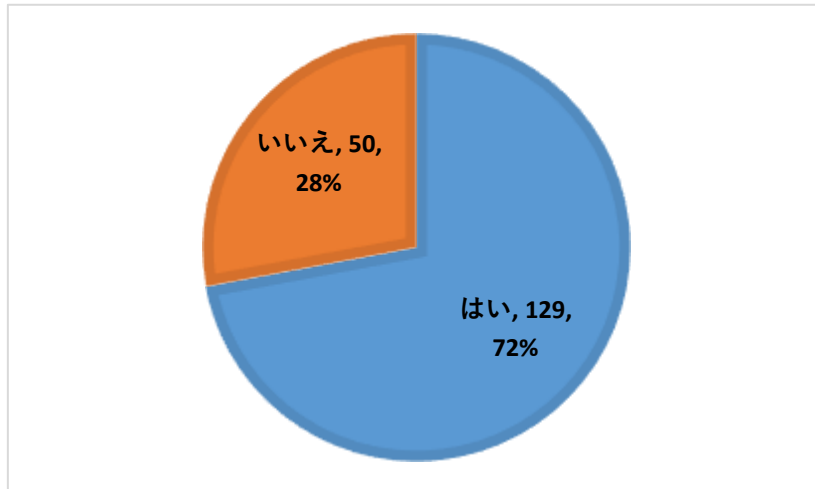


図 37 ドアの車両番号表示を知っている割合(n=179)

(6) ドアの開閉ボタン

「ドアの開閉ボタンについて知っているか」については、「知っている」が 68%(123 名)、「知らない」が 32%(57 名)であった(図 38)。開閉ボタンのない路線しか利用していない人もいるものと思われる。

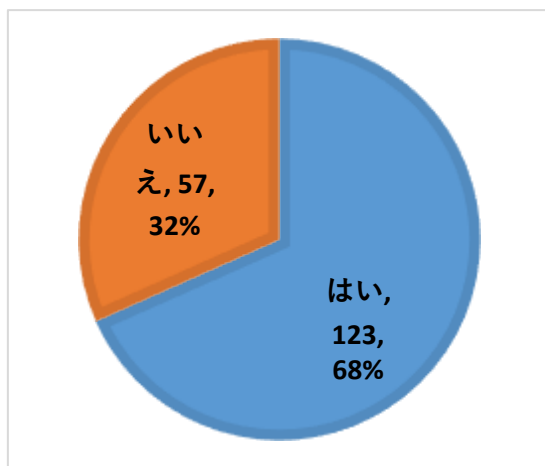


図 38 開閉ボタンを知っている割合(n=180)

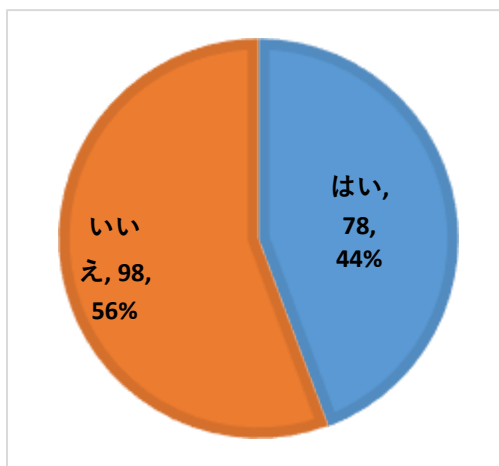


図 39 開閉ボタンの位置を知っている割合(n=176)

(7) ドアの開閉ボタンの位置

「ドアの開閉ボタンの位置はわかるか」の問いには、「わかる」44%(78 名)、「わからない」が 56%(98 名)であった(図 39)。わからないと回答する率が高い。

「いいえ」と答えた方は、どのように対応しているか、を尋ねると、「自分で見つけてい

る」が 14 名、「人に頼んでいる」が 34 名、「車掌さんに頼んでいる」が 4 名、「駅員にお願いしている」が 10 名、「その他」が 39 名であった(図 40)。

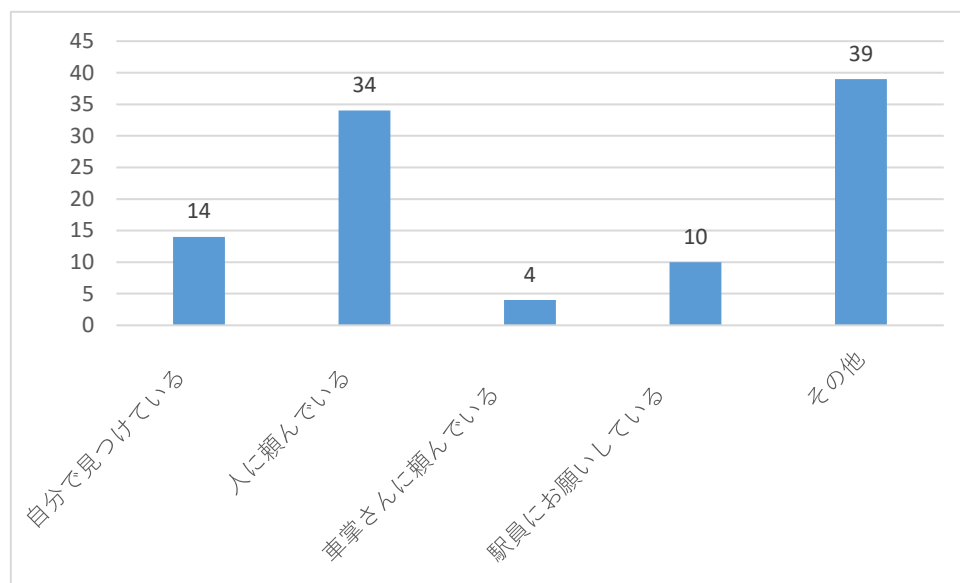


図 40 ボタンの位置がわからない場合の対処(n=101)

「その他」の記述内容は、以下のとおりである。

- ・使用したことがない
- ・分からない
- ・探したことはありません
- ・わからない
- ・使っていない
- ・関東では使わない
- ・一人でない
- ・使っていない
- ・利用しないから
- ・乗ったことがない
- ・ガイド
- ・ガイドにたのむ
- ・使わないのでわからない
- ・乗ったことないからわからない
- ・ガイドさんまたは家族
- ・手動の電車に乗ったことがない
- ・ガイド

- ・ボタンの電車に乗ったことがない
- ・自動開締閉の車両しか利用しない
- ・同行者に依頼
- ・あることは知っているが、生活範囲内で自分で利用する電車は走っていない
- ・乗ったことはない
- ・開閉ボタンのある電車にはのらない
- ・使用したことがない
- ・そのような電車にのる機会がない
- ・利用したことがない
- ・利用駅では自動で開く
- ・後ろからついていく
- ・そのような電車に乗ったことがない
- ・利用したことがない

以上の記述回答があった。同一の回答で「使用したことがない」は 14 件であり、開閉ボタンの無い路線を利用している視覚障害者も多くいると考えられる。乗降客の少ない鉄道路線など地方ではボタンによる開閉となっていることがあり、地域によっては歩行訓練士の訓練項目として必ず取り入れている地域もあるようだ。

3.7 自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)

ハイブリッドカーや電気自動車の場合、走行しているエンジン音が聞こえない場合があるため、法的には新型車は 2018 年 3 月 8 日から、継続生産者は 2022 年 10 月 8 日から、車両接近警報装置が義務付けられる。EU でも 2014 年に法成化され、加盟各国では 2019 年までにそれぞれの国で法制化しなければならないことになっている。国内では、メーカー各社によって若干異なるが、例えば時速 20km 以下で警報装置を鳴らす場合や、発進から時速 30km 以内の時と、停止の際、減速して 25km 以下になったときに鳴らす場合などとなっており、原則、その装置を止めることも可能であるが OFF にしないようユーザーに示している。

(1) 静かな車に困っている人

「静かな車ができて困っている人がいるのを知っているか」の問いには、「知っている」が 96%(172 名)、「知らない」が 4%(7 名)であった(図 41)。ほぼ自動車が電化されることで歩行などに危険性を感じている理由と思われる。

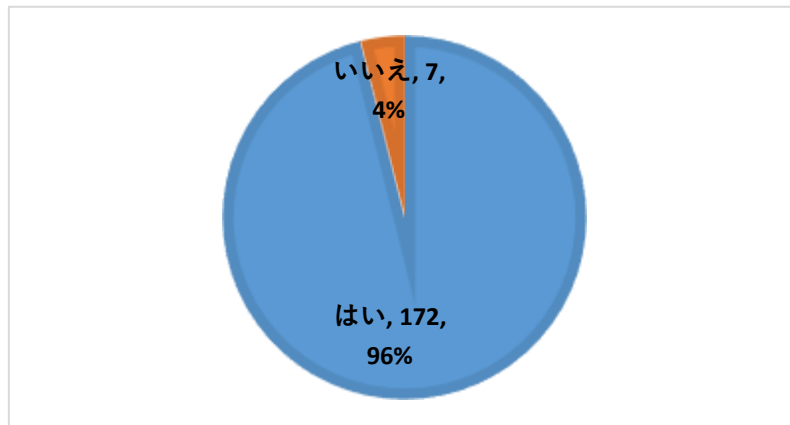


図 41 静かな車に困っている人がいることを知っている割合(n=179)

(2) 静かな車に音を出す装置

「静かな車があえて音を出すようになっていることを知っているか」の問いに対して、「はい」との回答は 72%(127 名)、「いいえ」が 28%(50 名)であり、意外に知らない人も多いことがわかった (図 42)。

(3) 静かな車で音が出るのを止める装置

「静かな車で音が出るのを止めることができることを知っているか」の問いに対して、「はい」との回答は 56%(99 名)、「いいえ」との回答は 44%(77 名)であった (図 43)。

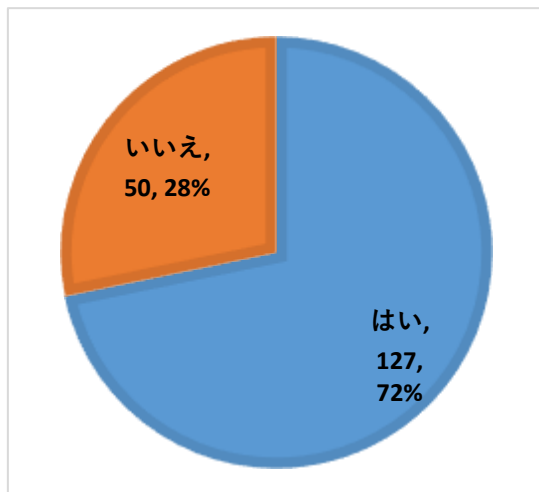


図 42 音を出す装置を知っている割合(n=177)

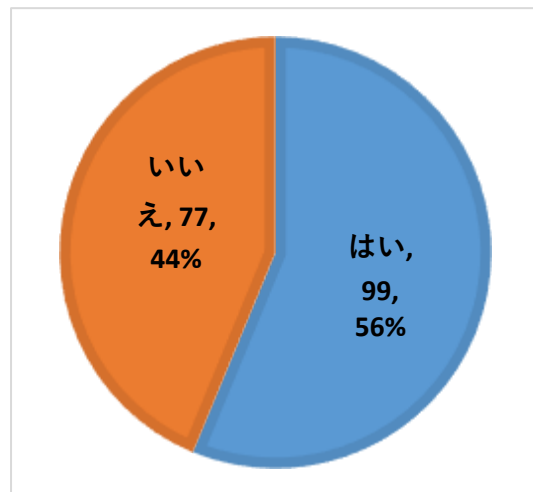


図 43 音を止める装置を知っている割合
(n=176)

(4) ある程度音が出る必要性

「車にはある程度の音が出た方が良くと思うか」の問いには、「はい」が 79%(146 名)、

「いいえ」が1%(1名)、「ある程度は必要」が20%(38名)であった(図44)。

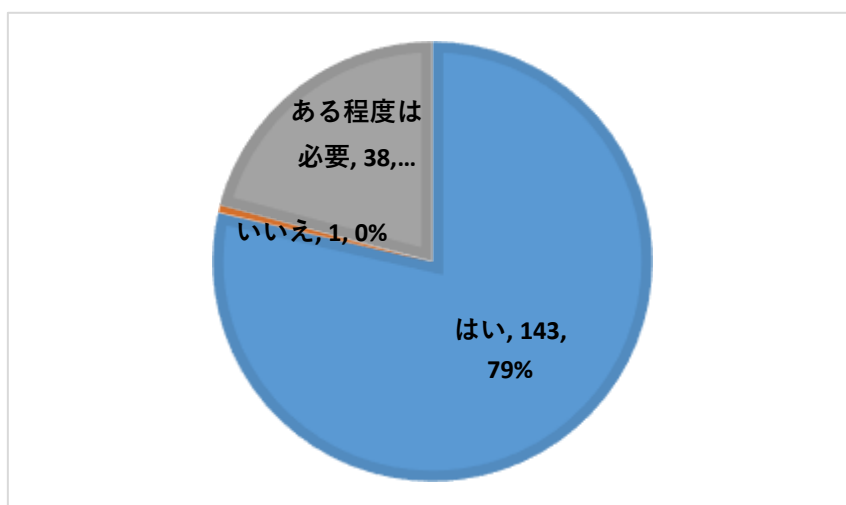


図44 車にはある程度音が出たほうがよいと思う割合(n=182)

3.8 外出時

(1) 声をかけられたか

外出時に「声をかけられたことがあるか」については、「はい」91%(161名)、「いいえ」9%(15名)であった(図45)。ほとんどの人が声をかけられていることがわかる。

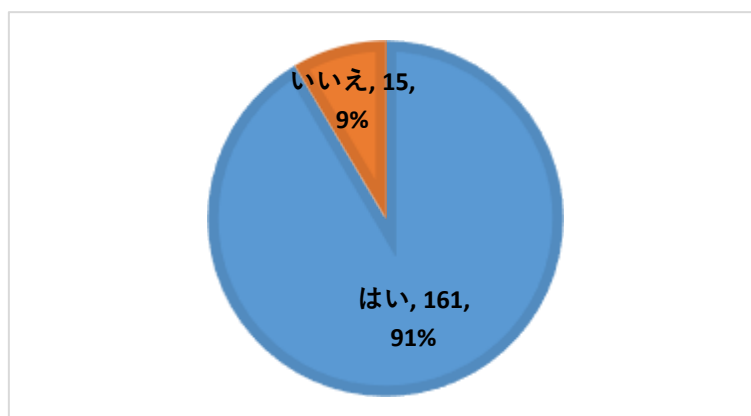


図45 外出した時に声をかけられた割合(n=176)

(2) 声をかけてほしいと思ったか

「声をかけてほしいと思ったことはあるか」については、「困ったときにはかけてほしい」が69%(119名)、「いつでもかけてほしい」16%(28名)、「どちらとも言えない」が15%(25名)であった(図46)。一番は「困った時に声をかけてほしい」ということだが、その点是一般の人の気づきがあるかどうかによるので、意外に視覚障害者の困っているタイミングと

は合わないことも考えられる。

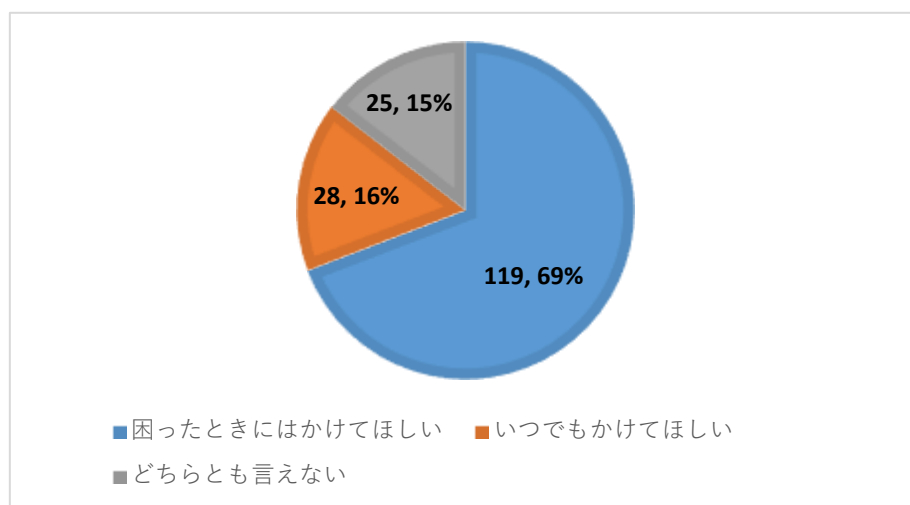


図 46 外出時、声をかけてほしいと思ったことがある割合(n=172)

(3) 断ったことがあるか、その理由

「声をかけられたときに断ったことはあるか」については、「ある」が 64%(108 名)、「いいえ」は 36%(61 名)であった(図 47)。アンケートの回答者総数 183 名のうち、108 名が断った経験があるとの回答であり、多くがのちに示す理由で断っている。次節で晴眼者のアンケートを取っているが、断られた際の受け止め方もあわせて検討する必要がある。

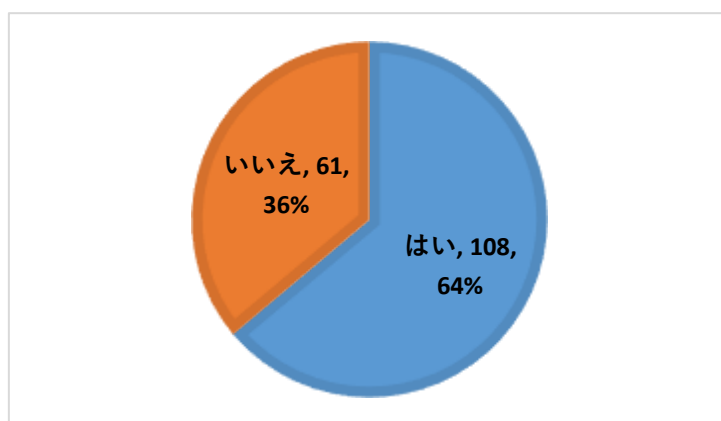


図 47 声をかけられた時、断ったことがある割合(n=169)

断った人に、その断った理由を尋ねたところ、「わかっている場所だから」が 67%(87 名)、「急いでいたから」が 7%(9 名)、その他 26%(34 名)であった(図 48)。

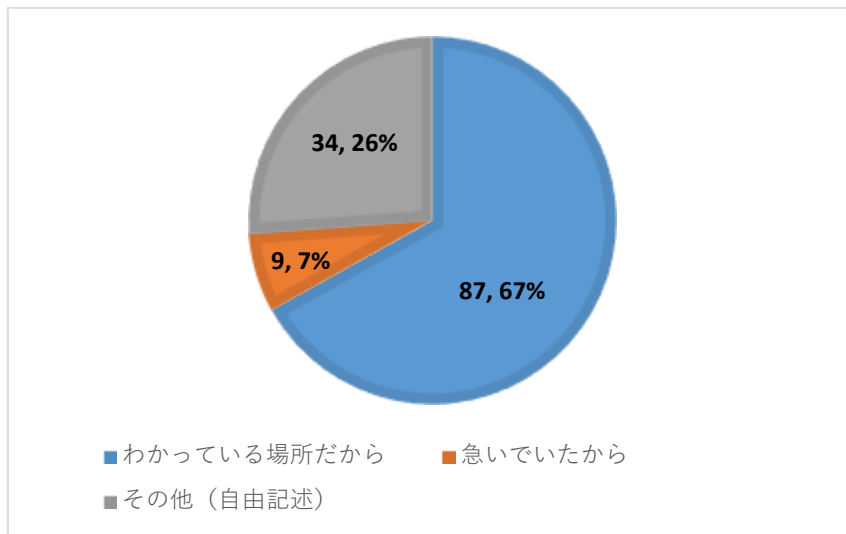


図 48 断った理由(n=130)

断ったことのある理由(自由記述より)は、以下の通りであった。

- ・ 電車内で声をかけられ、次の駅で降りるからとお断りした
- ・ 将来的に通い続ける場所でしたので、道を覚えるためにお断りしました
- ・ なんとなく不安だから
- ・ 同伴者が買物をしているので待っています
- ・ お願いしたいことと違う形になったから
- ・ 目的の場所がそこだから
- ・ 困っていること 鉄道サポートの場合、私鉄と JR など会社が違った場合、乗り継ぎサポートがないので困ります
- ・ 付き添いの人間が一時的に離れているときでした
- ・ 大丈夫だから
- ・ 待ち合わせしていたから
- ・ 練習していたから
- ・ 声をかけてくれることはやさしいのだが、断ったときにめげずに、次回も視覚障害者を見かけたときに声をかけてほしい
- ・ 満席の後で声をかけられたとき
- ・ 声のかけ方が気に入らなかったから
- ・ 声のトーン（大声でどなられたような上から目線的な声のかけ方）
- ・ 声をかけてきた時に予期せぬ体の一部に触れられたため（胸・お尻など）
- ・ ADL を維持するため
- ・ 前回かえって迷って困ったことがあるとき、すでに駅員さんに介助をお願いしていたとき。
- ・ うっとおしい、なんでも一人で小生はせんと好かん性格です。目が不自由な人はごく一

部を除いて、依存心が非常に強い人がおおいのです。はっきり言いまして、これでは自立心もつきませんので。これをいうと叱られるだろうと思いますが、依存心の強い人、あるいは制度があるけん、片っ端から利用したらえんじゃーというような横柄な人に限ってなんでできん人が多いのも事実です。

- ・ 親切にしてくださる気持ちはうれしいが助けにならず
- ・ 階段を降りるときに、集中がきれて危険を感じて立ち止まり、気持ちはありがたいが、かえってお互い危険だと言って、まずは見守って介助が必要かどうかを判断してほしいと断った
- ・ 杖をひっぱる、後ろから押す、肩をつかむ、わきにしたら手をいれてもちあげるなどの、声掛けの段階から誘導の方法が危険だった
- ・ 相手が麻痺などで、杖歩行で同行するのは危険だった
- ・ 知っている道以外で連れていかれそうになった
- ・ 酒臭い男性だった
- ・ 後ろから押されたり、服をひっぱられたり、白杖をもたれたりして逆に危なかったことがよくあったから
- ・ 最近では声かけしてくれるひとが多くなって助かっている。電車やバスなどの座席をおしえてもらうのもありがたい。知っているところでもできるだけ、断らないようにしている。視覚障害者への理解を深めてもらう良い機会と考える
- ・ 知っているルートで疲れていて人と話すのがしんどかったから
- ・ 一駅しか乗らないのに席譲られたり普段と違う改札口に案内されようとしたとき
- ・ 外出先から帰宅する所だったから

以上が、自由記述の内容であった。視覚障害者自らの事情の場合と、声をかけてくれる人の態度や行動に問題があった場合などが挙げられていた。

4. 晴眼者へのアンケート調査結果

晴眼者へのアンケート調査では、回収は 593 件であったが、その内、属性の性別と年齢層の回答が無いものを除き、587 件を集計の対象とした。

4.1 回答者の属性

(1) 年齢層

回答者を年代別にみると、10代 37%(219 名)、20代 6%(37 名)、30代 6%(33 名)、40代 10%(62 名)、50代 10%(56 名)、60代 16%(94 名)、70代以上 15%(86 名)であった(図 49)。したがって、10代・20代で 43%、30代から 50代で 26%、60代以上で 31%という割合であった。

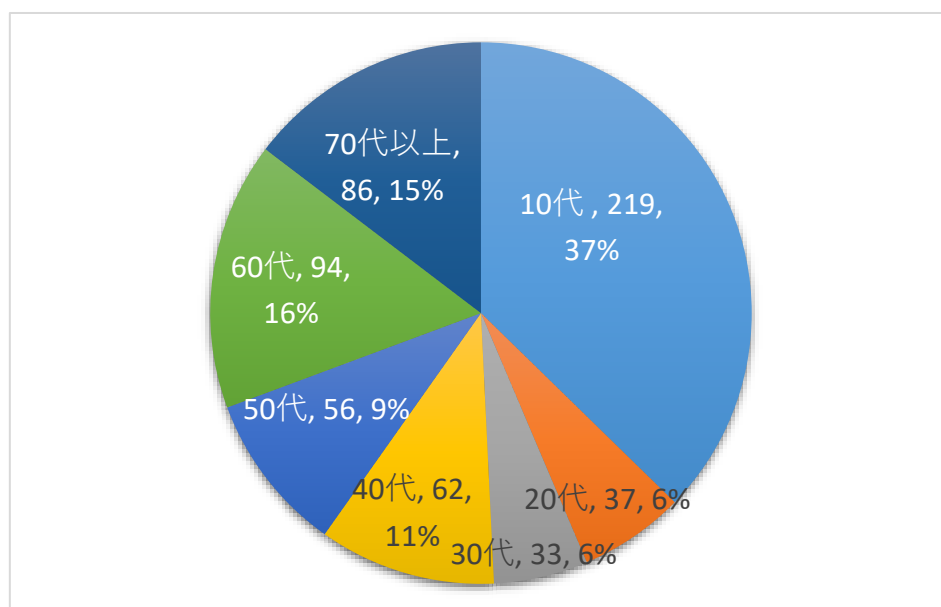


図 49 年代別回答者の割合(n=587)

(2) 性別

性別では、男性 38%(225 名)、女性 62%(362 名)であった(図 50)。

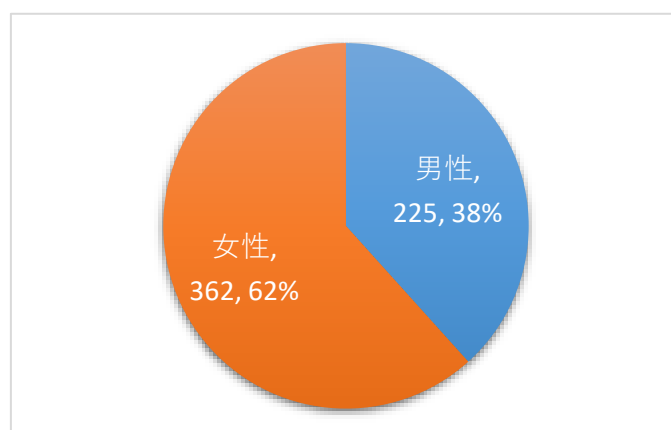


図 50 回答者の男女別割合(n=587)

また、回答者の性別の年齢層をみると男性の 45%が 10 代で、それ以上の年齢は 10%弱で 20 代から 70 代以上に均等に分布している（図 51）。女性は 10 代がやや多くなっているが、広い年齢層から回答を得ている。

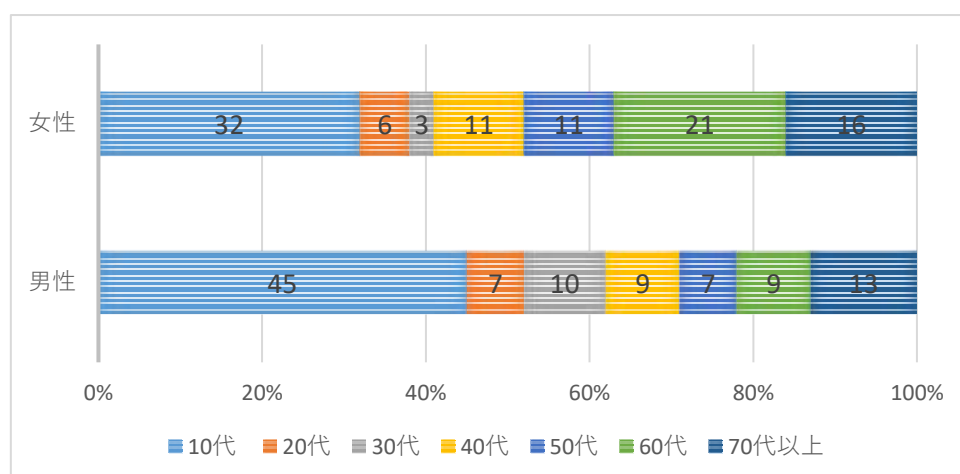


図 51 回答者の性別年齢層の割合(グラフ内の数値単位は%)

(3) 職業

回答者を職業別にみると、中・高・大学生が最も多く 229 名、専業主婦 70 名、無職 60 名、会社員 54 名、公務員 52 名、自営業 20 名、そしてその他 95 名であった（図 52）。

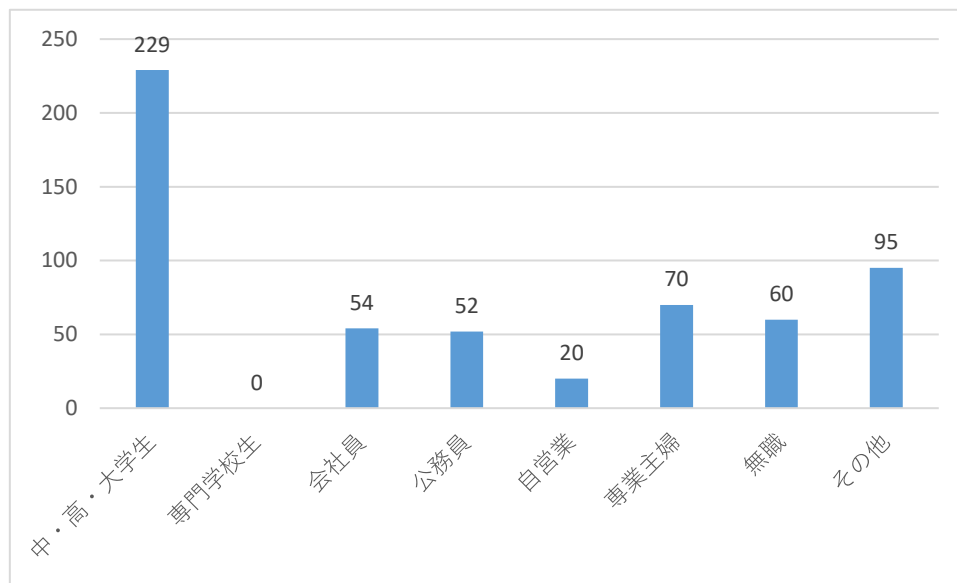


図 52 回答者の職業 (n=580)

4.2 障害者について

障害者について見聞きしたり、経験したりしたことがある事柄として、多い順に示すと、車いす 557 件、松葉づえ 457 件、盲導犬 425 件、手話 447 件、電動車いす 415 件、白杖 392 件、義足 318 件、介助犬 255 件、義手 243 件、義眼 229 件、T 字杖 176 件、聴導犬 153 件、要約筆記 141 件、ロフトランド杖 49 件、となっている (図 53)。

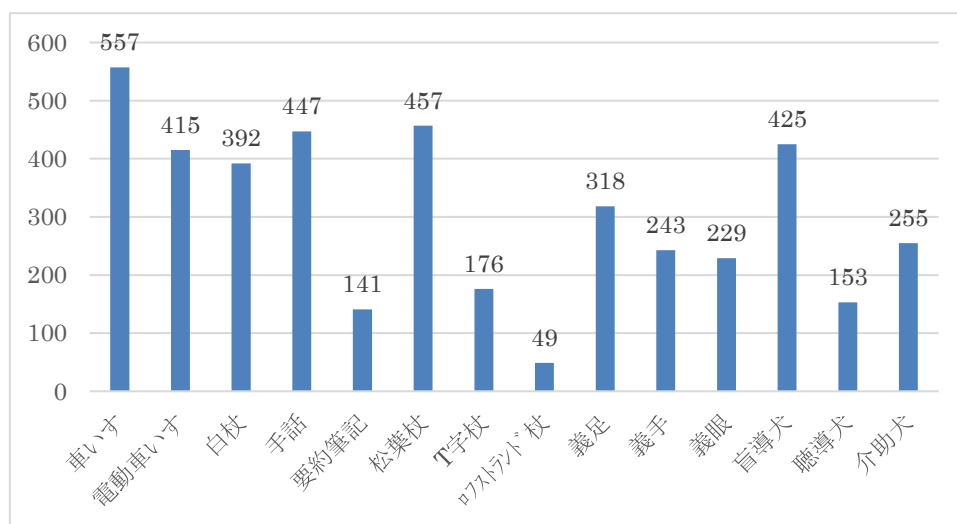


図 53 障害者に関して見聞きしたり経験したりしたことのある事柄(複数回答)

晴眼者の世代別にみた場合も、どの世代も同様の知識、経験であり、今後、理解、啓発を求めるとすれば、全ての世代に向けた働きかけが必要である (図 54)。

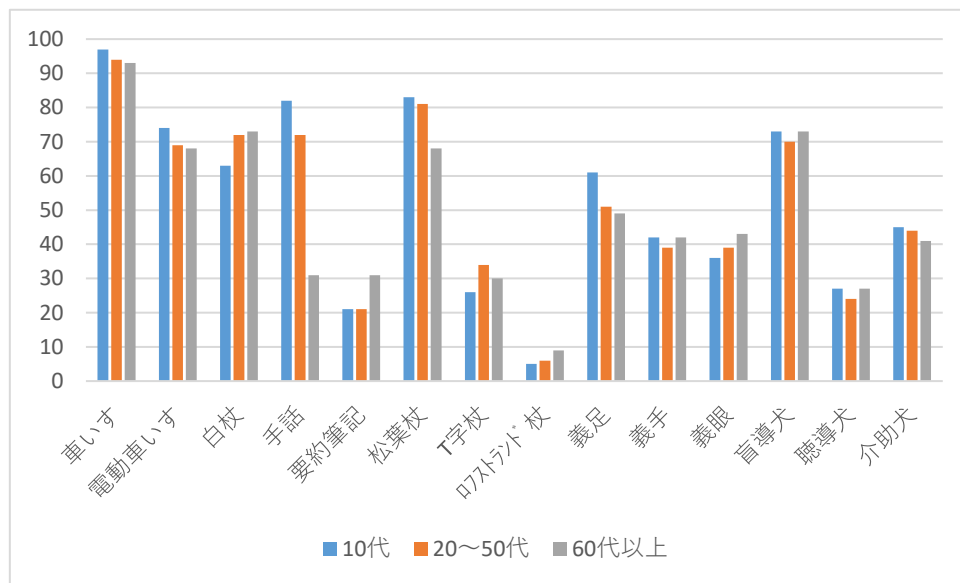


図 54 年代別で見たり聞いたり経験したりしたことのあるもの(数値単位は%)

4.3 視覚障害者関連の設備など

(1) 点字ブロック

「点字ブロックを知っているか」の問いに、「はい」は98%(574名)、「いいえ」は2%(12名)であり(図 55)、当然ながらほとんど全ての視覚障害者は知っていると言える。

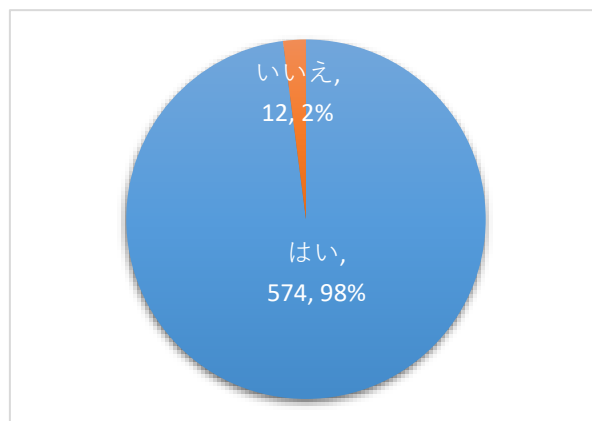


図 55 点字ブロックを知っている割合(n=586)

(2) 内方線付きの点字ブロック

「内方線付きの点字ブロックを知っているか」の問いには、「はい」が83%(479名)、「いいえ」が17%(95名)となっている(図 56)。これはホーム上の点字ブロックの特徴ある形状の敷設であり、知っている割合は少し減っている。

(3) 点字ブロックの色

「点字ブロックが黄色だと知っているか」の問いには、「はい」が 91%(521 名)、「いいえ」が 9%(54 名)であった (図 57)。

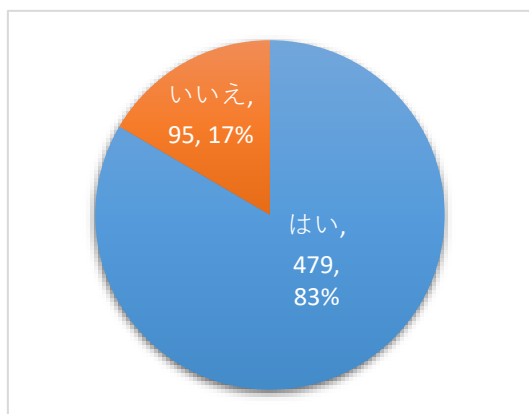


図 56 内方線点字ブロックを知っている割合
(n=574)

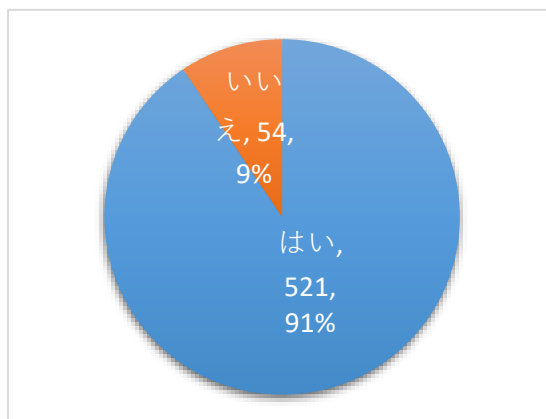


図 57 点字ブロックが黄色と知っている割合
(n=575)

(3) 点字ブロックの色

「点字ブロックが黄色だと知っているか」の問いには、「はい」が 91%(521 名)、「いいえ」が 9%(54 名)であった (図 57)。

(4) エスコートゾーン

「横断歩道のエスコートゾーンを知っているか」の問いには、「はい」が 32%(183 名)、「いいえ」が 34%(192 名)、「わからない」が 34%(192 名)であった(図 58)。したがって晴眼者の約 7 割はエスコートゾーンを知らないことになる。

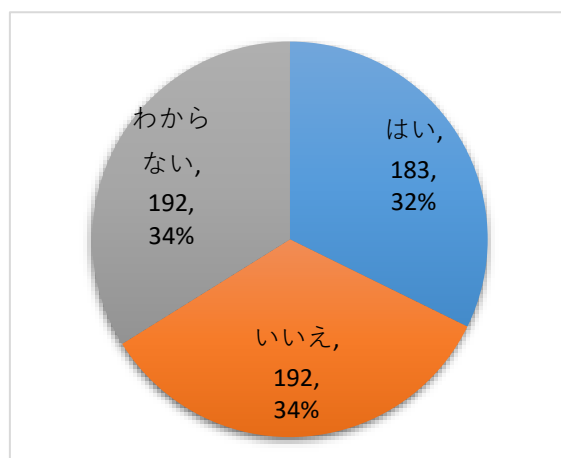


図 58 エスコートゾーンを知っている割合(n=577)

世代別にみると知っている割合が 20 代以上は 40%であるが、10 代は 20%に下がっている
ので、若年層は外出の機会が少ない分、見かけないことが多いと思われる(図 59)。

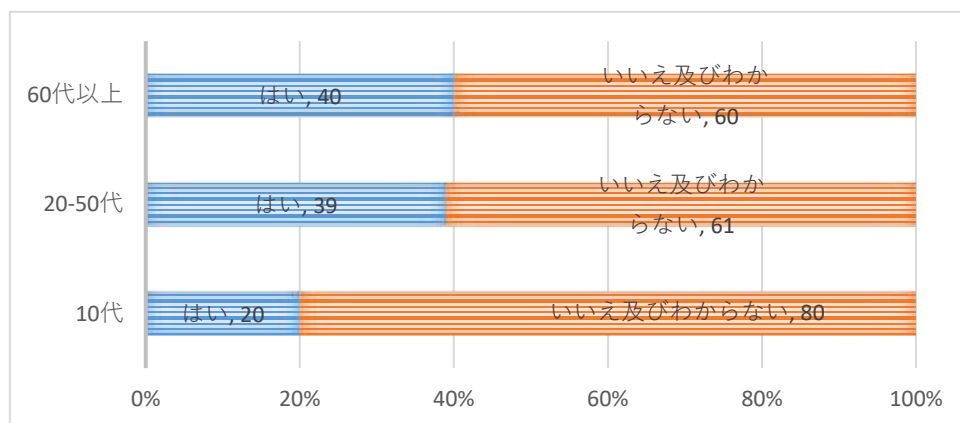


図 59 世代別のエスコートゾーンを知っている割合（グラフ内の数値単位は%）

(5) 歩道と車道の段差

「歩道と車道の段差は必要か」の問いに対して、「はい」が 64%(369 名)、「いいえ」が 18%(100 名)、「わからない」が 18%(104 名)であった（図 60）。これは視覚障害者の移動方法などについて十分理解されていない結果と言える。

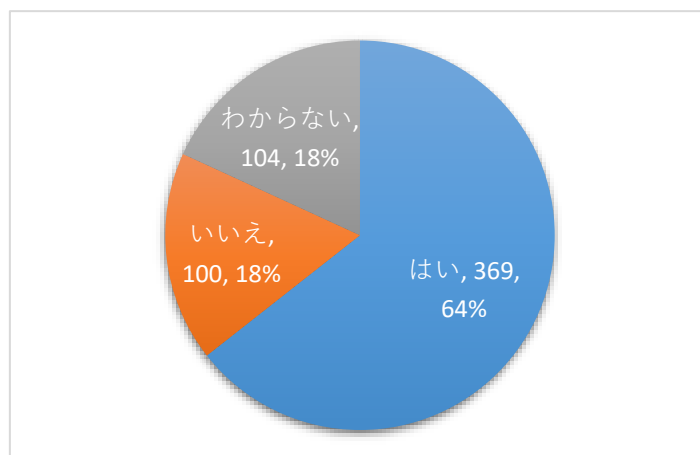


図 60 歩道と車道の段差の必要か否かについての割合(n=573)

世代別に段差の必要についての意見をみると、若い世代ほど必要性を感じており、高齢層になるほど低くなっている（図 61）。これは知識によるものか段差へのつまづきなどの経験があつての意見か、見極めることはむずかしいが、若い世代に理解が進むことは大切なことと言える。

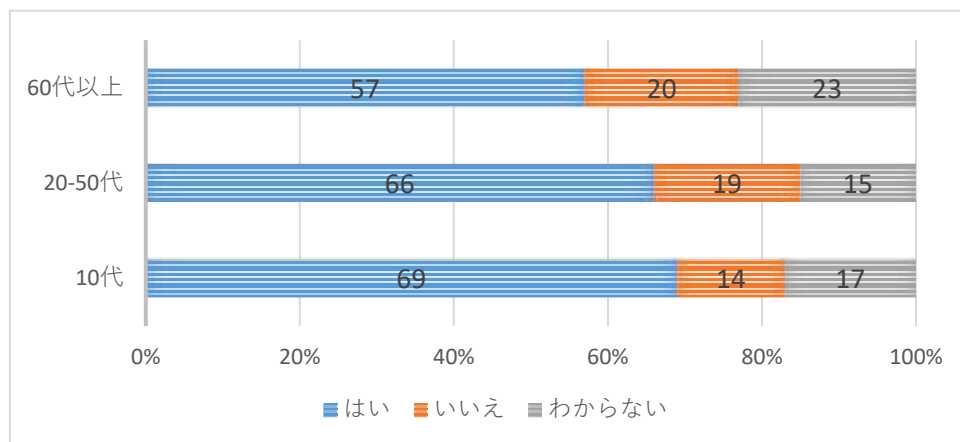


図 61 歩道と車道の段差の必要(グラフ内の数値単位は%)

(6) 点字ブロック上に物を置くこと

点字ブロックの上にもものや自転車などを置いてはいけないことについての認識についての回答は、「はい」が 91%(528 名)、「いいえ」が 9%(50 名)であった(図 62)。この点は 100% になるよう啓発活動を進める必要がある。

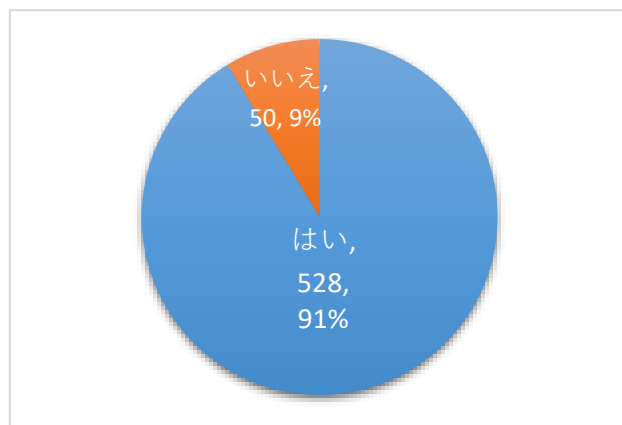


図 62 点字ブロック上に物を置いてはいけないとの認識の有無(n=578)

4.4 街で聴こえる音

(1) 音の出る信号機

音の出る信号機について「知っているか」の問いに対して、99%(552 名)が知っていると回答し、1%(8 名)が知らないと回答している(図 63)。

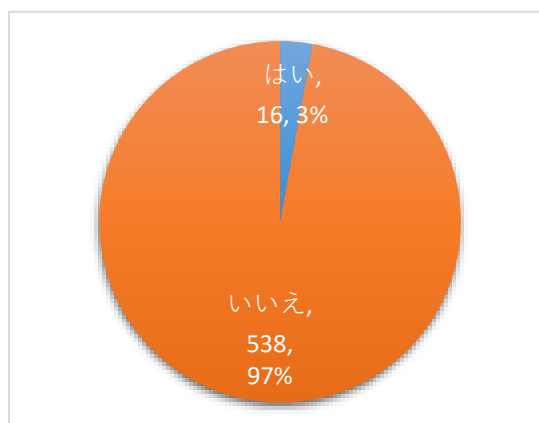
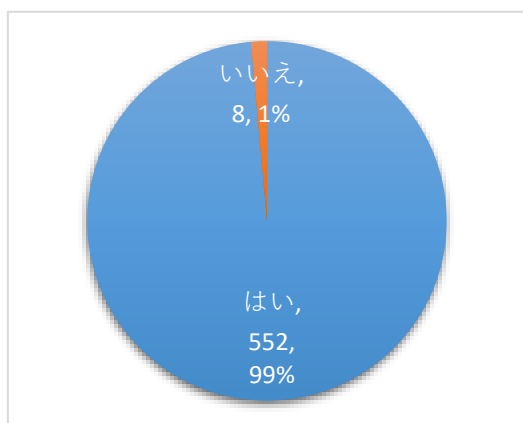


図 63 音の信号機を知っている割合(n=560) 図 64 信号機の音をうるさいと思う割合 (n=554)

その信号機の音がうるさいと思うかについての問いでは、「いいえ」が 97%(538 名)、「はい」が 3%(16 名)であった(図 64)。

「うるさいと思う」と回答した方は 16 名であるが、問いの表現が正しく伝わらなかったようで、うるさいとは思わない方の意見も多く含まれている。「必要だったら仕方ない」59 名、「大きさにもよる」14 名、「音は必要ない」2 名となっている (図 65)。

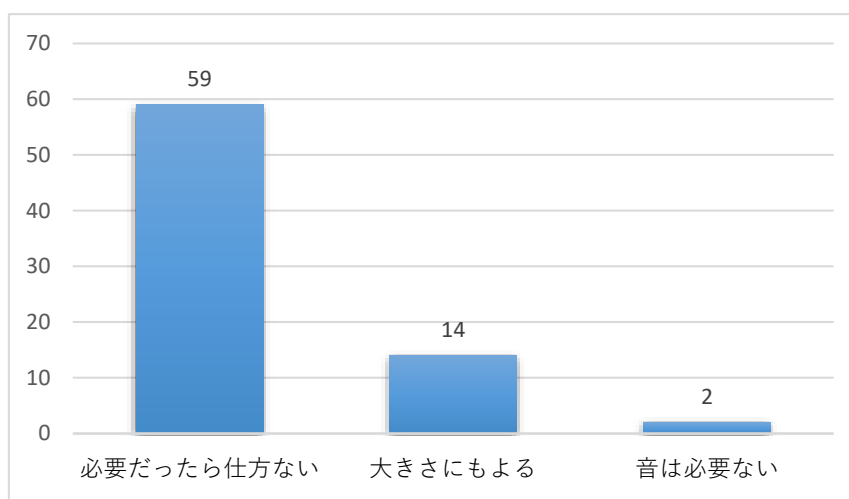


図 65 「うるさいと思う」と回答した方、その他の意見

(2) 改札口の音

「改札口のピンポンとなる音を知っているか」の問いに、「はい」との回答は 90%(504 名)、「いいえ」は 10%(53 名)であった(図 66)。

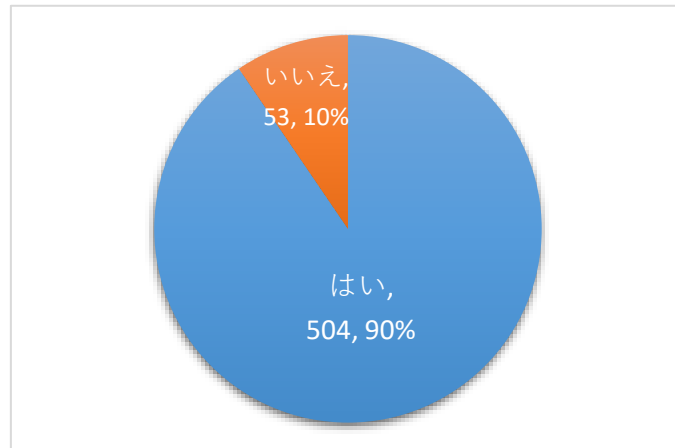


図 66 改札口のピンボンとなる音を知っている割合 (n=557)

(3) ホーム上の階段の鳥の声

「ホーム上の階段の鳥の声に気づいているか」の問いには、「はい」68%(376名)、「いいえ」32%(181名)であった(図 67)。

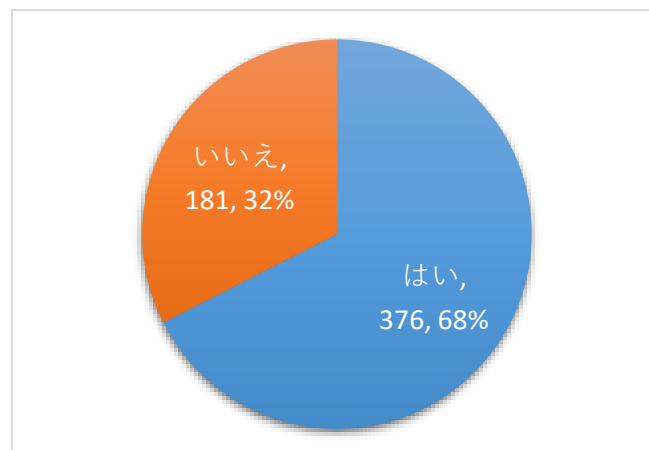


図 67 ホーム上の階段の鳥の声に気づいている割合

(4) 地下に入る入口での音

「地下に入る入口に音になっているのに気づいているか」の問いには、「はい」32%(178名)、「いいえ」68%(374名)であった。

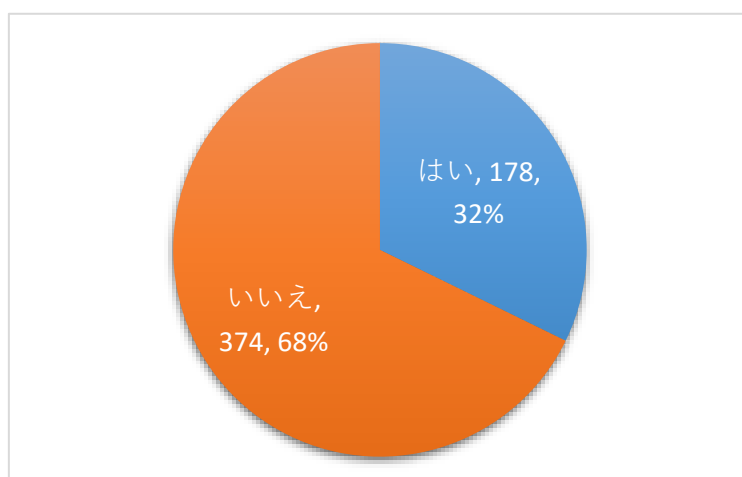


図 68 地下に入る入口に音が鳴っているのに気づいている割合 (n=406)

4.5 ホームドア

(1) ホームドア

「ホームドアを知っているか」の問いには、87%(483 名)が「はい」と回答し、13%(75 名)が「いいえ」と回答している(図 69)。

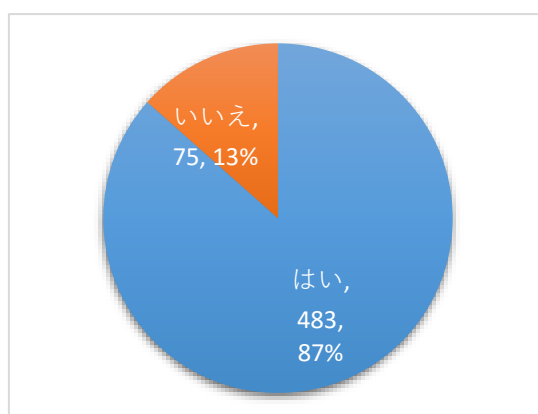


図 69 ホームドアを知っている割合(n=558)

年齢層別にみると、10 代の層は知らないと回答している率が、中高年よりも多い。60 代以上は 9 割以上が知っていると回答している(図 70)。

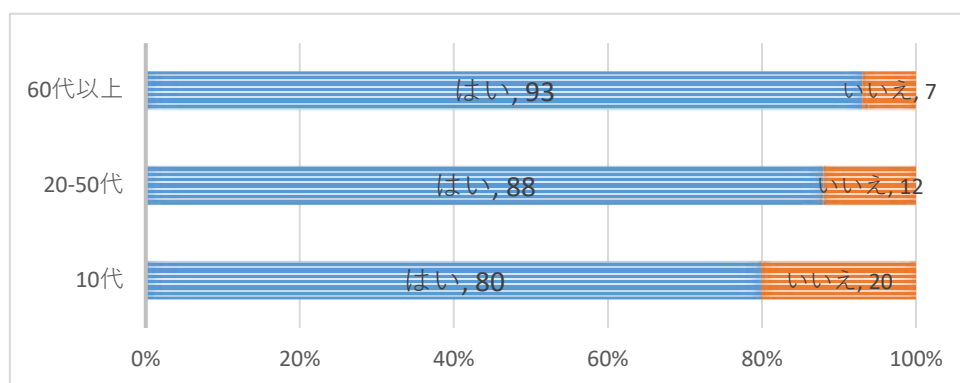


図 70 ホームドアを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

「ホームドアは必要か否か」の問いには、必要が 84%(474 名)、必要ないが 1%(6 名)、わからないと回答している人が 15%(82 名)であった(図 71)。この結果を世代別にみると、高齢世代は必要と考え、若い世代は必要と思う割合がわずかに少なかった (図 72)。

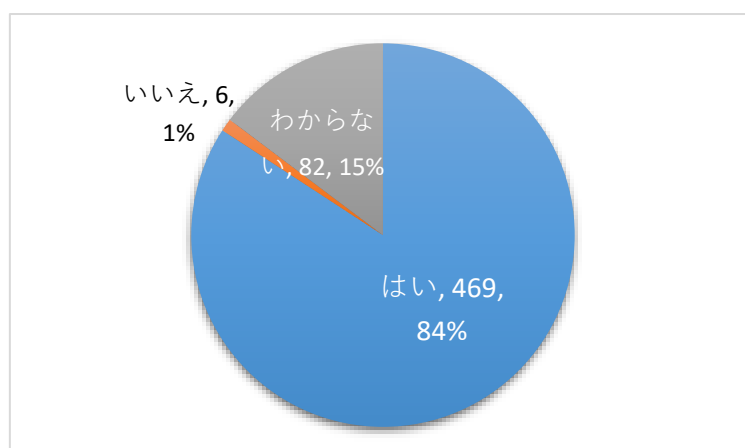


図 71 ホームドアを必要と思う割合(n=557)

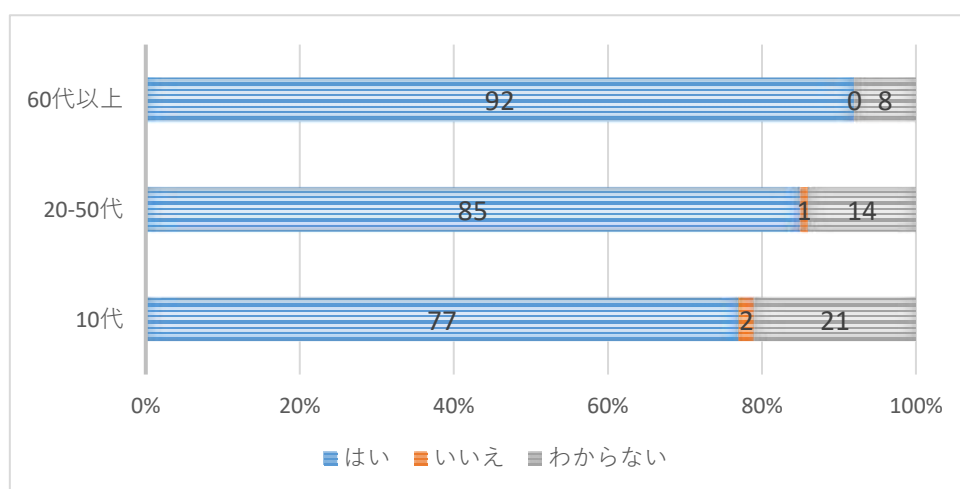


図 72 世代別にみるホームドアの必要と思う割合(グラフ内の数値単位は%)

(2) ホームドアの一般の人への効果

「ホームドアは一般の人にも役立つと思うか」については、「はい」82%(454名)、「いいえ」1%(8名)、「わからない」17%(92名)であった(図 73)。

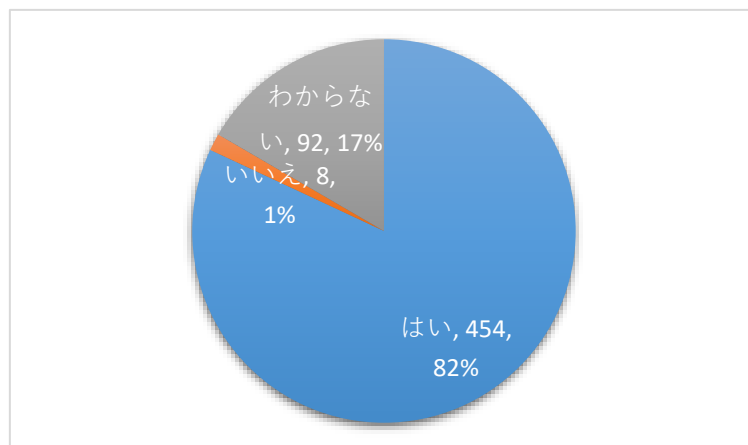


図 73 ホームドアが一般の人にも役立つと思う割合(n=554)

(3) 設置に対する行政、鉄道会社の負担

「ホームドアの設置には、国・市町村・会社が負担していることを知っているか」の問いには、「はい」が55%(306名)、「いいえ」が45%(255名)であった(図 74)。

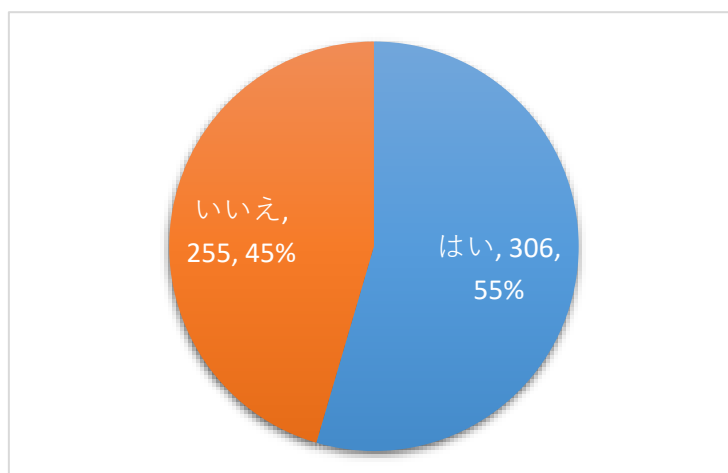


図 74 設置に国・市町村・会社が負担していることを知っている割合(n=561)

(4) 設置に運賃の値上げに対する意識

「ホームドアを設置するために運賃が上がってもよいか」の問いに対する回答は、「はい」

33%(182 名)、「いいえ」13%(74 名)、「金額にもよる」が 54%(298 名)であった(図 75)。

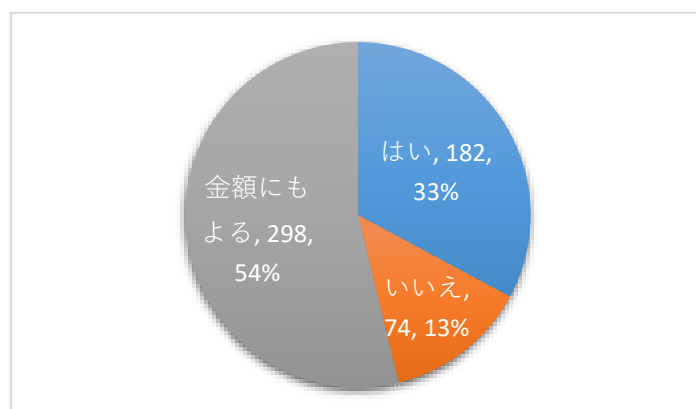


図 75 ホームドア設置のため運賃が上がってもよいかについての回答(n=554)

「ホームドア設置で運賃が上がってもよい」と回答したのは 33%であったが、世代別みると 20～50 代及び 60 代以上は 40%であるが、10 代はその半数、21%であり、経済的な理由は少額でも判断に差が出るのが垣間見える(図 76)。

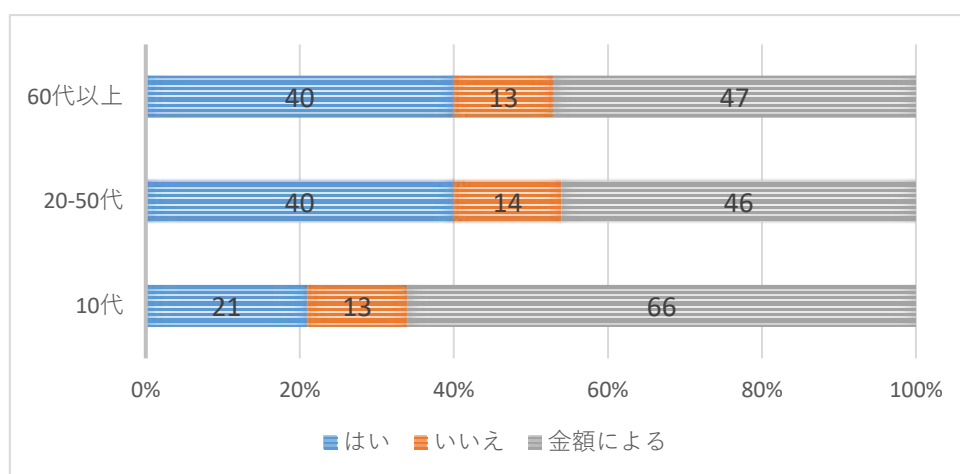


図 76 ホームドア設置のため運賃が上がってもよいか、の問いへの回答

「金額にもよる」と回答した人に許容金額を尋ねると、「10 円以下」が 35%(147 名)、「20 円以下」が 48%(199 名)、「50 円以下」が 17%(71 名)であった(図 77)。

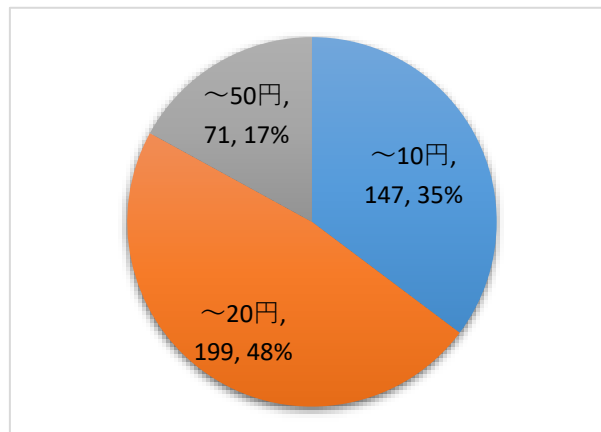


図 77 金額によると回答した人の許容金額(n=417)

4.6 電車の車両

(1) 優先席

電車の車両の「優先席がある場所を知っているか」の問いには、「はい」98%(553名)、「いいえ」2%(10名)であり、ほとんどの人が知っている(図78)。

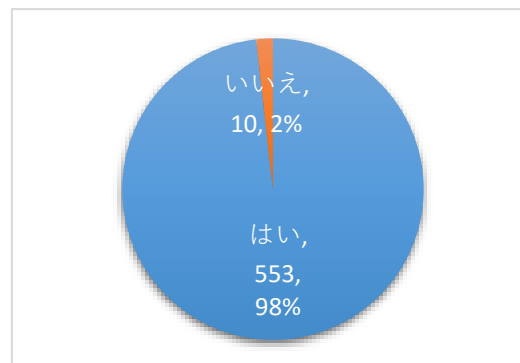


図 78 優先席のある場所を知っている割合(n=563)

(2) 携帯やスマホの電源

「優先席付近で携帯電話やスマートフォンの電源を切るか」については、「はい」が25%(137名)、「いいえ」が51%(288名)、「どちらとも言えない」が24%(135名)であった(図79)。視覚障害者のアンケート調査結果と同様、切る人の割合は少ない。

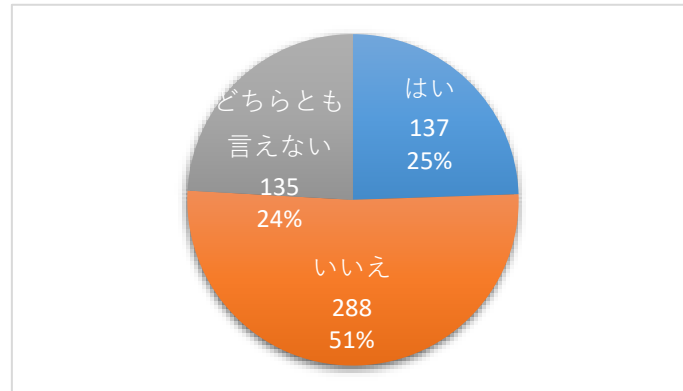


図 79 優先席近辺で携帯やスマホの電源を切る割合(n=560)

年齢層別に来ると、電源を切ると答えた割合は、60代以上 38%、20～50代 24%、10代 14%と下がっているのは、世代間の意識の違い、使用状況の違いを表している(図 80)。

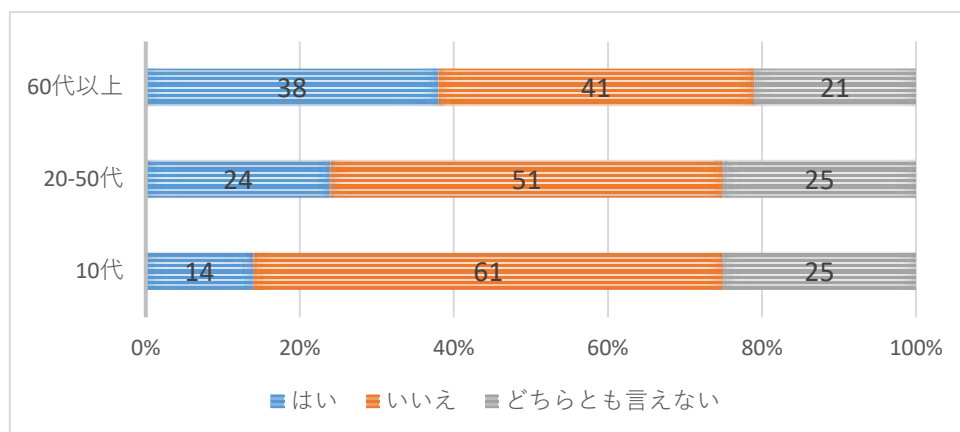


図 80 年齢層別にみる優先席付近での携帯・スマホの電源を切る割合

(3) 女性専用車両

「女性専用車両は何両目にあるか知っているか」の問いでは、「はい」が 51%(288 名)、「いいえ」が 49%(279 名)と、ほぼ半数ずつに分かれた(図 81)。

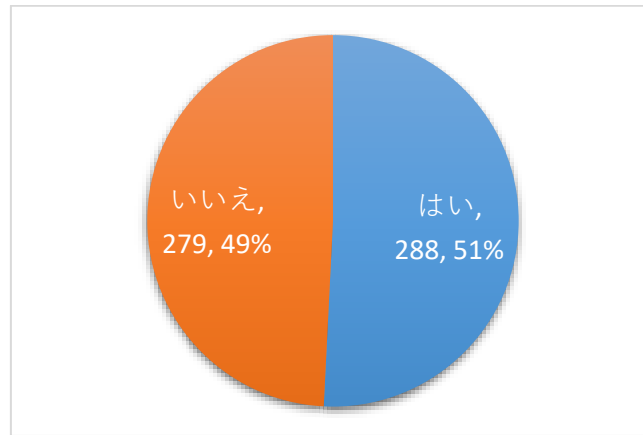


図 81 女性専用車両は何両目にあるか知っている割合(n=567)

(4) 弱冷房車

「弱冷房車は何両目にあるか知っているか」の問いには、「はい」27%(154名)、「いいえ」73%(412名)であった(図 82)。これは、冷房に対して意識しているか否かにもよると共に、通勤・通学の都合が優先して弱冷房車の選択は後回しにしていることも考えられる。

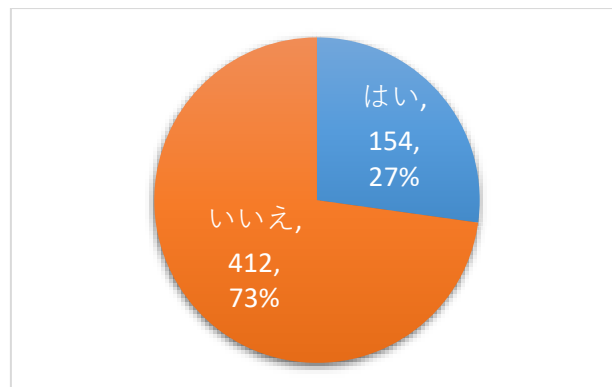


図 82 弱冷房車は何両目か知っている割合(n=566)

(5) ドアに付いている車両番号

「ドアに車両番号がついているのを知っているか」の問いには、「はい」が70%(396名)、「いいえ」が30%(168名)であった(図 83)。

知っている割合を年齢層別にみると、わずかな差であるが、若い世代ほど表示をみているように思われる(図 84)。

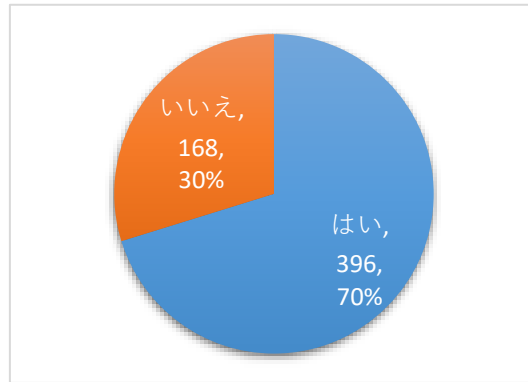


図 83 ドアに車両番号がついているのを知っている割合 (n=564)

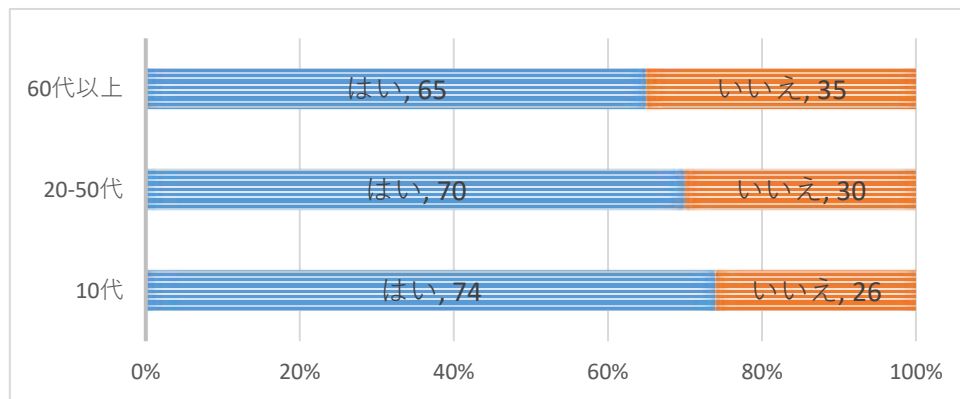


図 84 ドアについている車両番号を知っている割合

(6) ドアの開閉ボタン

「ドアの開閉ボタンを知っているか」については、「はい」が 86%(489 名)、「いいえ」が 14%(78 名)であった(図 85)。

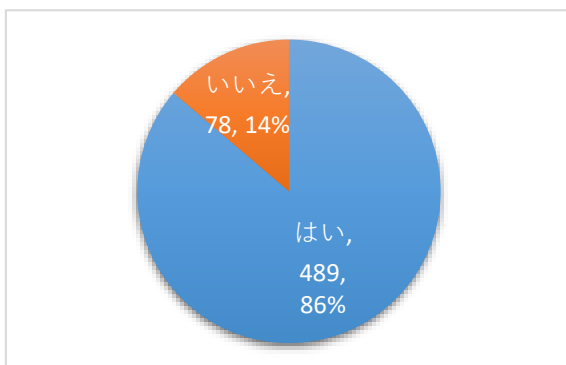


図 85 ドアの開閉ボタンを知っている割合
(n=567)

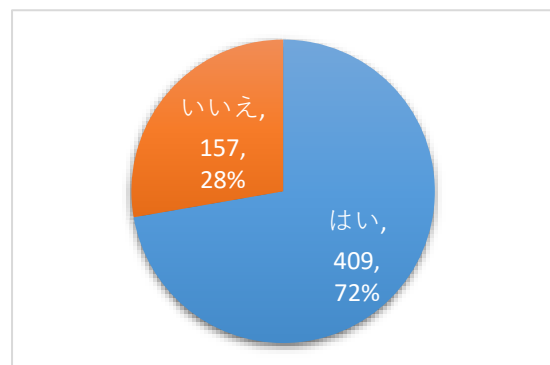


図 86 ボタンの位置を知っている割合
(n=566)

(7) ドアの開閉ボタンの位置

「ドアの開閉ボタンの位置について知っているか」については、「はい」72%(409名)、「いいえ」28%(157名)であった(図86)。

(8) 位置がわからない人に気づいたことの有無

開閉ボタンの位置がわからない人がいることに気づいたことがあるか否かについては、「はい」が16%(89名)、「いいえ」が84%(452名)であった(図87)。

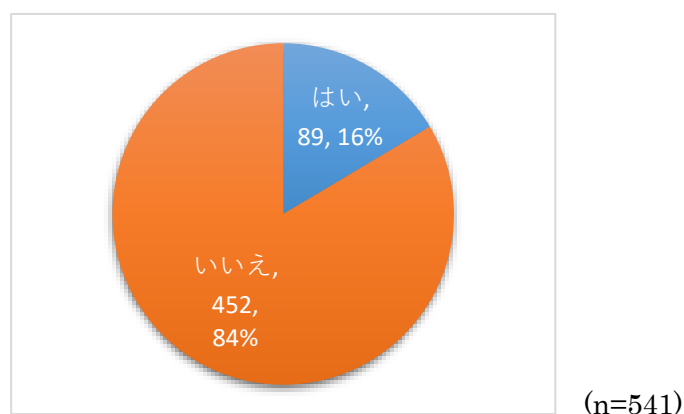


図87 開閉ボタンの位置がわからない人に気づいたことがある割合

(9) その際、どう対処したか

その際、どのように対処したかについては、「代わりに押してあげた」51%(55名)、「場所を教えた」29%(31名)、「何もしなかった」20%(22名)となっている(図88)。

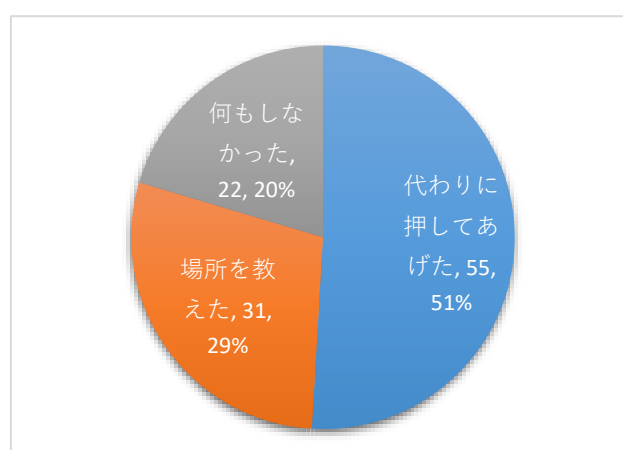


図88 「はい」と回答した人が行った行動(n=108)

4.7 自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)

(1) 静かな車に困っている人

自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)について「困っている人がいるのを知っているか」についての問いに対して、「はい」73%(412名)、「いいえ」27%(155名)であった(図89)。

(2) 静かな車に音を出す装置

静かな車に「あえて音を出すようになっていることを知っているか」の問いに、「はい」46%(256名)、「いいえ」54%(305名)であった(図90)。

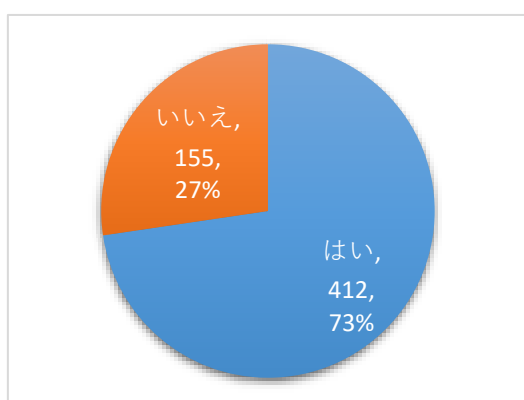


図89 静かな車に困る人がいるのを知っている割合(n=567)

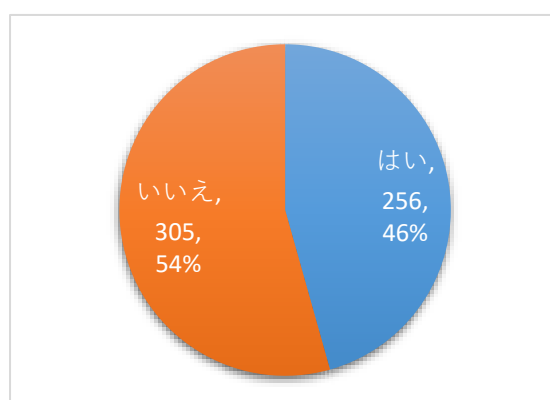


図90 静かな車に音を出す装置があることを知っている割合(n=561)

(3) 静かな車で音が出るのを止める装置

「静かな車で音が出るのを止めることができることを知っているか」については、「はい」24%(133名)、「いいえ」76%(429名)であった(図91)。

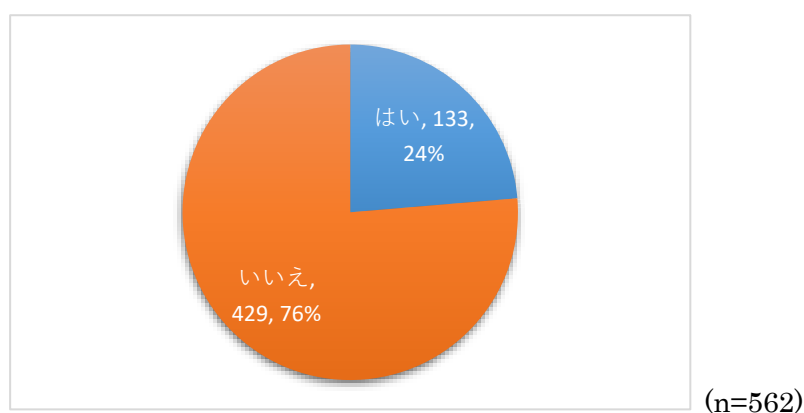


図91 静かな車で音が出るのを止める装置があることを知っている割合

(4) ある程度音が出る必要性

「ある程度、音が出たほうがよいと思うか」については、「はい」54%(305名)、「いいえ」2%(12名)、「ある程度は必要」44%(251名)であった(図92)。

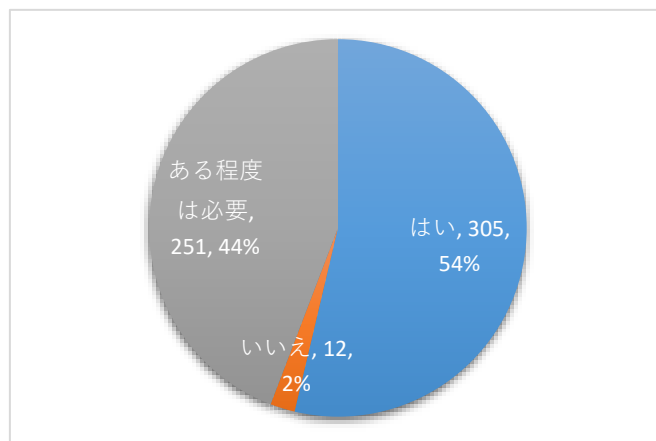


図92 ある程度、音が出たほうがよいと思う割合(n=568)

4.8 外出時について

(1) 視覚障害者を見かけたこと

「町や駅で視覚障害者を見かけたことがあるか」については、「はい」が96%(546名)、「いいえ」4%(24名)であった(図93)。

(2) 声をかけたか

「見かけた時に声をかけられるか」については、「はい」43%(247名)、「いいえ」57%(321名)であった(図94)。

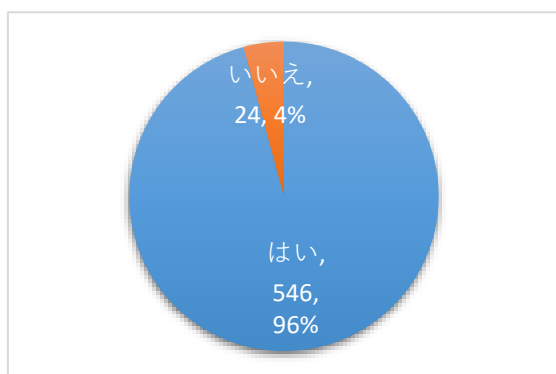


図93 町や駅で視覚障害者を見かけた割合
(n=570)

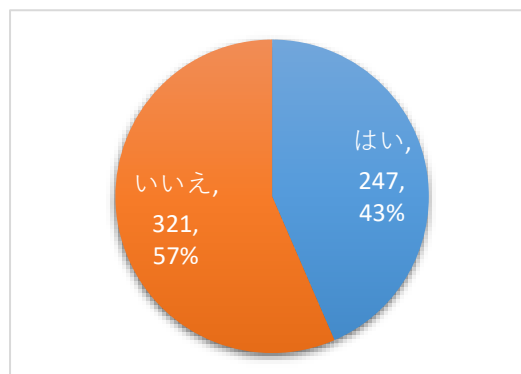


図94 見かけた時、声をかけられるか
(n=568)

(3) 声のかけ方を知っているか

「声のかけ方を知っているか」については、「はい」が 52%(298 名)、「いいえ」が 48%(280 名)であった(図 95)。

(4) 声をかけたことがあるか

実際に声をかけたことがあるかについての問いには、「はい」が 41%(230 名)、「いいえ」が 59%(333 名)であった(図 96)。

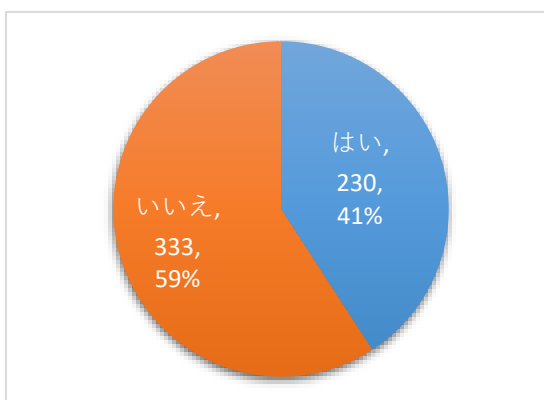
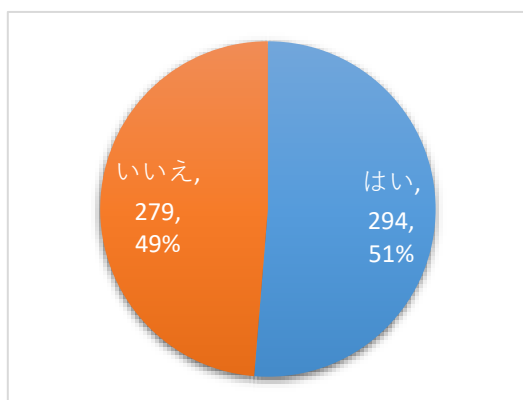


図 95 声のかけ方を知っている割合(n=573) 図 96 街で声をかけたことがある割合
(n=563)

(5) 断られたことがあるか

「声をかけて断られたことがあるか」については、「はい」が 18%(88 名)、「いいえ」が 82%(401 名)であった (図 97)。声をかけた回答者と本質問の回答者数があっていないが、断られている数は少ないことはわかる。

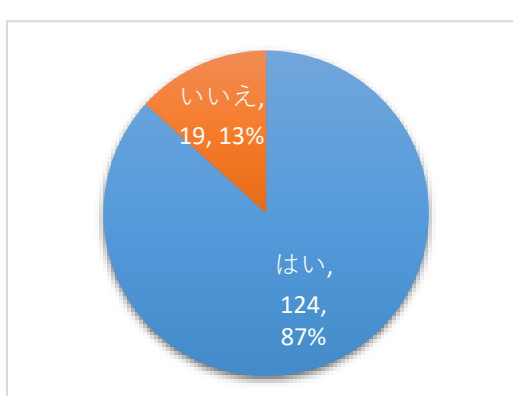


図 97 声をかけて断られたことがある割合 図 98 「はい」と答えた方は、次にまた声を
を

(n=489)

かけようと思うか (n=143)

断られたことがあるとの回答者に対して「次にまた声をかけようと思うか」の問いに、「はい」 87%(124 名)、「いいえ」 13%(19 名)であった(図 98)。

「いいえ」の回答者の理由を尋ねたところ、回答者には「はい」の方も含まれており、また、複数回答となっている。「人の気持ちに背かれたから」 16 件、「断り方が失礼だったから」 6 件、「歩けるなら手伝う必要はないと思うから」 18 件、「その他」 10 件であった(図 99)。

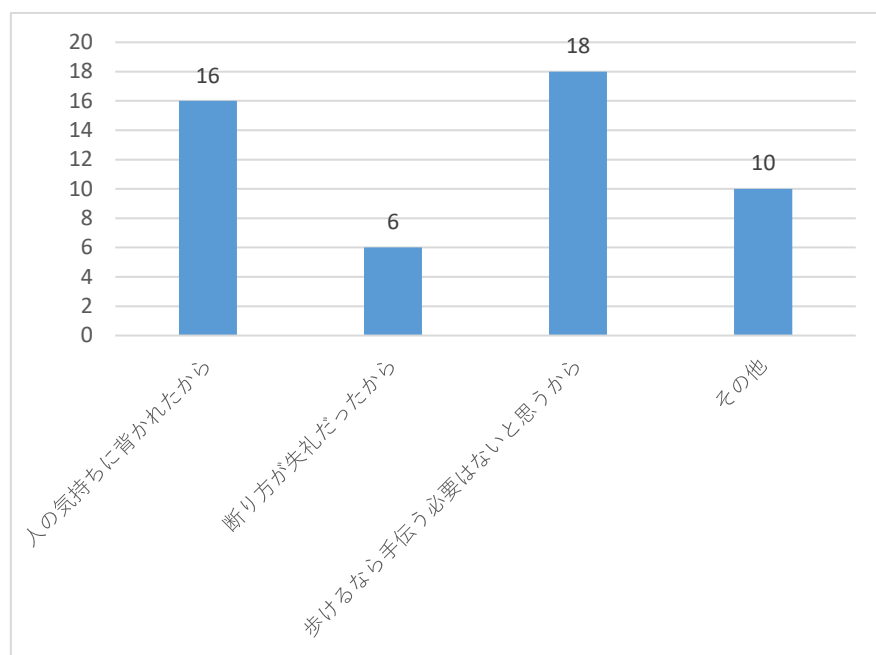


図 99 「いいえ」と答えた人の理由

「その他」で自由記述の内容は、次の通りである。

- ・考えを改めて、気にできた
- ・特に必要がなさそうだったから
- ・声をかけないから
- ・めんどくさい
- ・何度か声掛けした事有りますが、けわしい態度で断られたことが何度あるので声掛けしないことに決めてます
- ・視覚障害者の方が、何歩で目的地まで行くと考えながら、歩いているかもでしれないので、もし困っているようでしたら、お声掛けしたいなと思っています
- ・困ったサインを感じませんでした

- ・相手の方の立場になって行動して行きたいと思ってます
- ・わかりません
- ・障害者の障害の程度はそれぞれ違い、自立意識も違うので出来るだけ支援は心掛けているが、適切に行えているかどうか難しい
- ・とくには声掛けなし、見守っている
- ・目にしたとき必要があれば
- ・声をかけるのに勇気がいる
- ・少し立ち止まって様子をみたことはありますが、大丈夫なようなので声はかけなかった
- ・色々勉強しなければと思います
- ・求められたら
- ・そういう機会が今までになかった
- ・その方が必要でなければ、声掛けの必要はいらないと思った

以上、自由記述を列挙したが、主な理由として「待ち合わせている場合」「その場所に精通している場合」「相手の声や態度が受け入れられなかった場合」「自分の体の状態による場合」などにまとめられる。

5. 視覚障害者と晴眼者の各アンケート結果の比較

5.1 視覚障害者の回答者と晴眼者の回答者の属性の特徴の比較

(1) 回答者の男女比の特徴

視覚障害者はほぼ半々であったが、晴眼者は男性 4 割、女性 6 割であった。

(2) 回答者の年齢層の特徴

視覚障害者の回答者は 60 代以上が過半数を占めている一方、晴眼者は 10 代が 4 割近くを占めており、世代間の違いを考慮して検討する必要がある(図 100)。

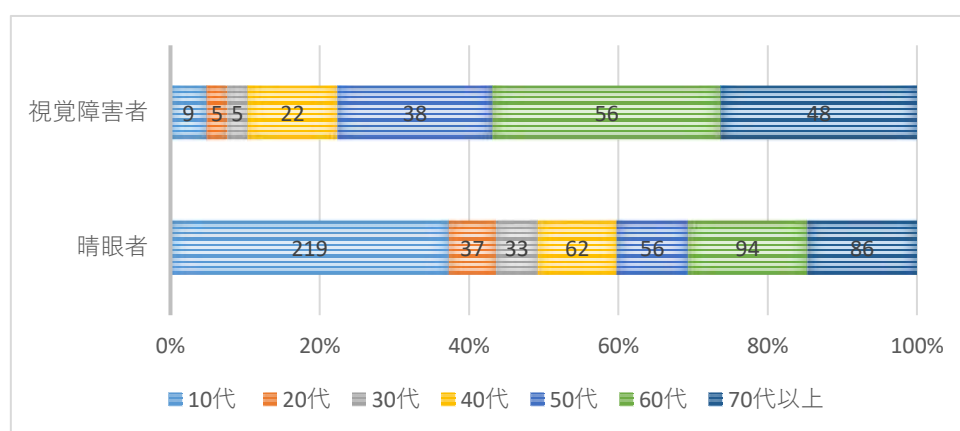


図 100 回答者の視覚障害者と晴眼者の年齢層別割合(グラフ内の数字は回答者数)

5.2 視覚障害者用の設備等

(1) 点字ブロックについて

点字ブロックは、ほぼすべての人に知れ渡っていると言える。視覚障害者は全員、晴眼者は 587 人中 12 人が「いいえ」と回答しているが、ほぼ 100%に近い(図 101)。点字ブロックについて認識はしているが、その使い方や種類などは知らないと考えた場合「いいえ」と答えることも考えられる。日本では全国に渡って共通した敷設状態で普及しているので、点字ブロックについては社会に浸透していると理解してよいと考えられる。

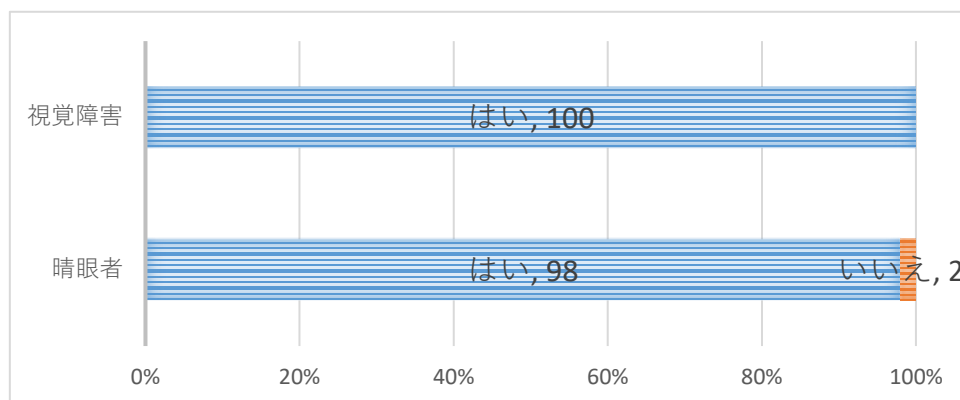


図 101 点字ブロックを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

(2) 内方線付きの点字ブロックについて

内方線付きの点字ブロックを知っている割合は、視覚障害者も晴眼者もほぼ同じ割合、8割強の回答者が知っていると答えている(図 102)。最近ホームでの放送も「黄色い点字ブロックよりお下がりください」と列車の入線のたびに流されており、晴眼者も足元の点字ブロックを見て、そこに線状の突線があることを認識しているものと思われる。

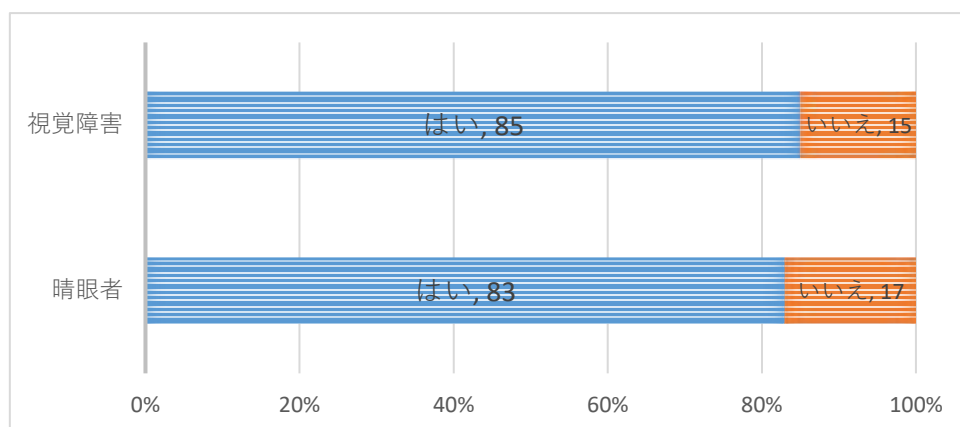


図 102 内方線付の点字ブロックを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

(3) エスコートゾーンについて

横断歩道のエスコートゾーンについては、視覚障害者の場合は敷設されていればそこをたどって歩行することが多いと思われ、知っている割合は 81%となっているが、晴眼者の場合は、知っていると答えたのは 32%にとどまっている(図 103)。したがって、その敷設の割合もまだ少ないと考えられる。

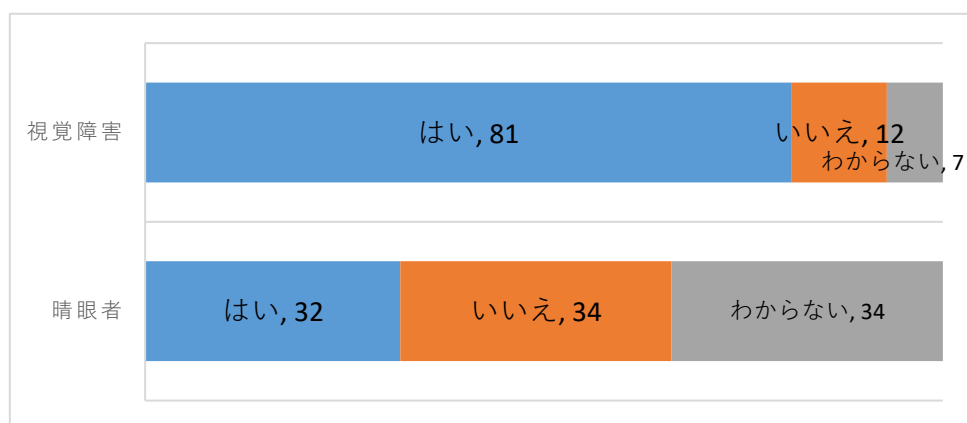


図 103 エスコートゾーンを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

(4) 歩道と車道の段差について

歩道と車道の段差は、バリアフリー法あるいは神奈川のバリアフリーガイドラインにおいて 2cm の段差を提示している。これは視覚障害者が歩車道の境界を白杖で確認しながら移動する上で求められる最低限の段差となっている。それを視覚障害者は 86%が認識しているが、晴眼者の場合は 64%にとどまり、「いいえ」と「わからない」の回答を合わせると 36%となってしまう(図 104)。

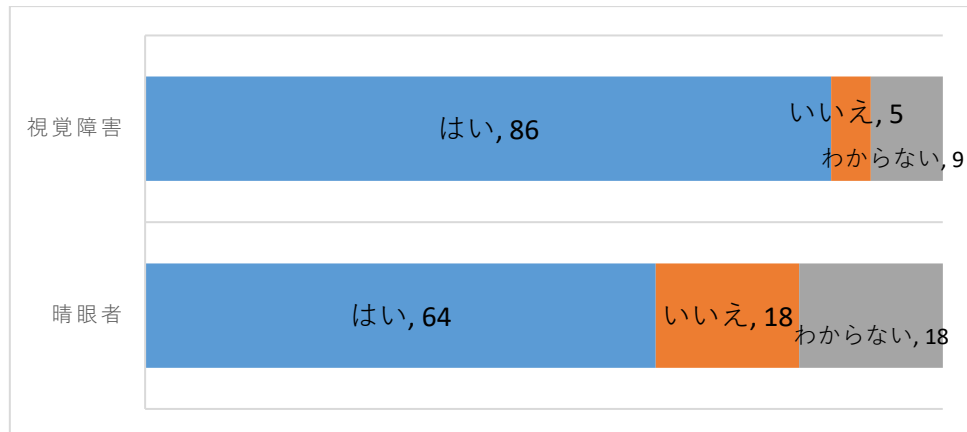


図 104 歩道と車道の段差は必要か否かの回答割合(グラフ内の数値単位は%)

5.3 街で聴こえる音

(1) 音の出る信号機について

音の出る信号機については、視覚障害者も晴眼者もほとんどすべての人が知っている結果であった。そして、うるさいと思うと答えた人は非常に少なく、視覚障害者は必要と感じており、晴眼者も受け入れていると言える(図 105)。

「うるさいと思う」に「はい」と回答した人の意見を聞いたが、その回答には「いいえ」や「わからない」と回答した人も選択している。視覚障害者 18 人、晴眼者 75 人が回答し

ている(図 106)。「必要だったら仕方ない」とか「音の大きさにもよる」を合わせると 9 割を超えるので、基本的には受け入れられていると考えてよいと思われる(図 107)。

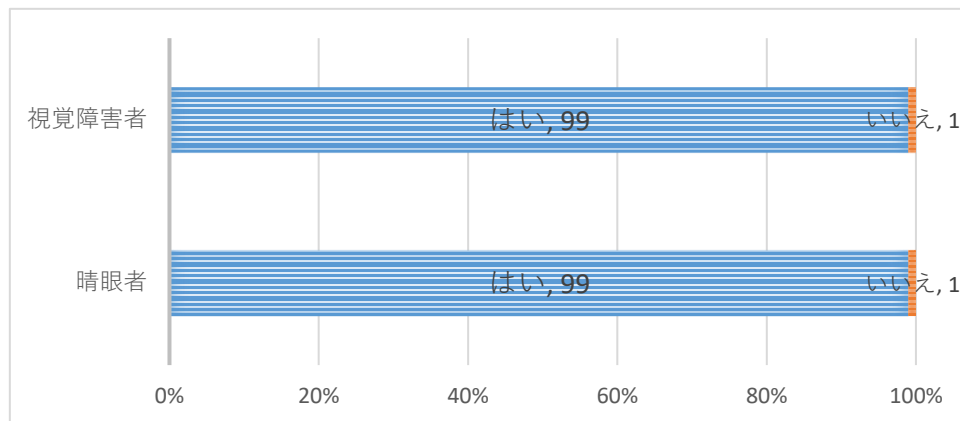


図 105 音の出る信号機を知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

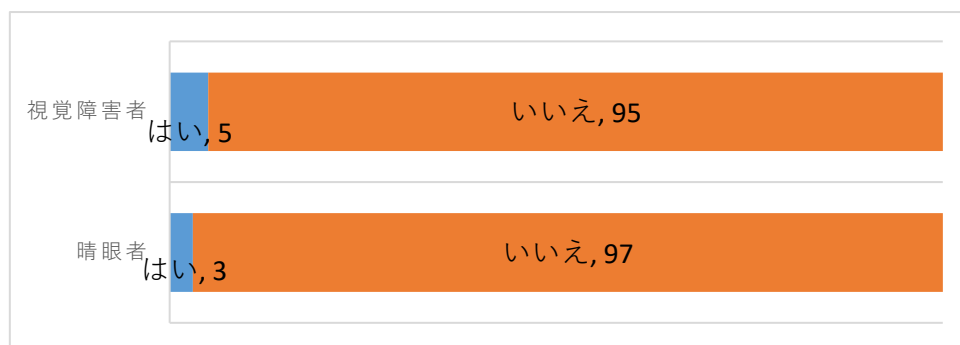


図 106 音の出る信号機はうるさいと思う割合(グラフ内の数値単位は%)

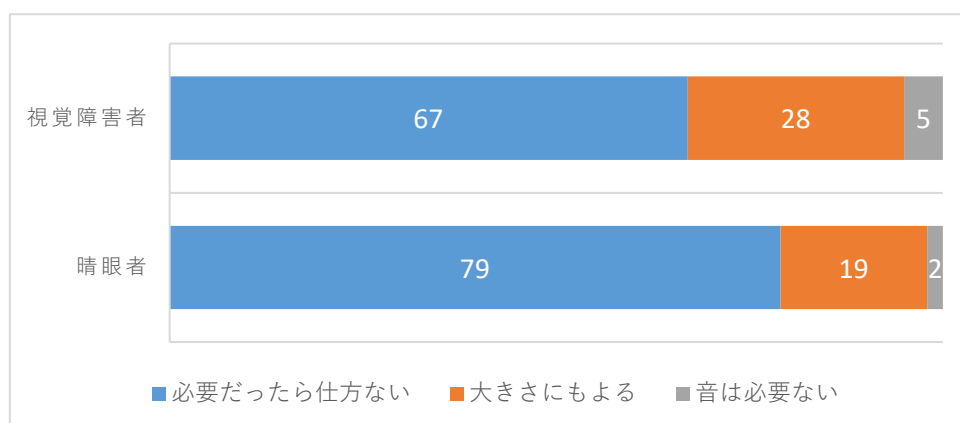


図 107 うるさいと答えた人の意見(「はい」以外も含む)(グラフ内の数値単位は%)

(2) 改札口のピンポンという音について

「改札口のピンポンとなる音を知っているか」の問いに対して、視覚障害者は 97%、晴眼者は 90%が知っていることから晴眼者も音を認識していることがわかる(図 108)。

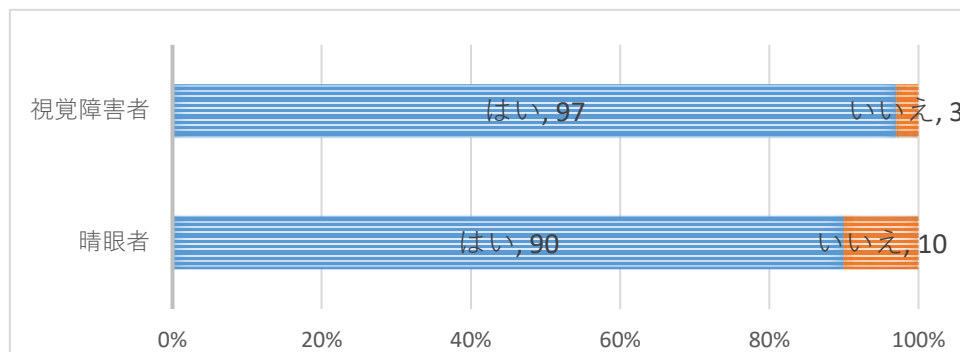


図 108 改札口のピンポンの音に気付いている割合(グラフの数値単位は%)

ホームの階段の鳥の声に気づいている割合は、改札口のピンポンの音よりは少し少なくなって、視覚障害者は 85%、晴眼者は 68%となっている(図 109)。

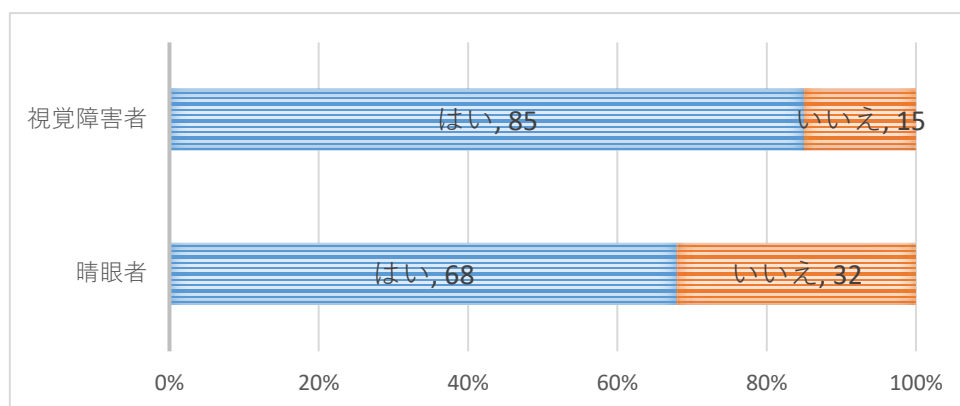


図 109 ホームの階段の鳥の声に気づいている割合(グラフの数値単位は%)

「地下に入る入口に音がなっているのに気づいているか」の問いには、視覚障害者は 61% に対して、晴眼者は 32%と気づいている率は下がる(図 110)。音を頼りにせずに移動している晴眼者は当然、気づいていない人たちが多くなっていると思われる。

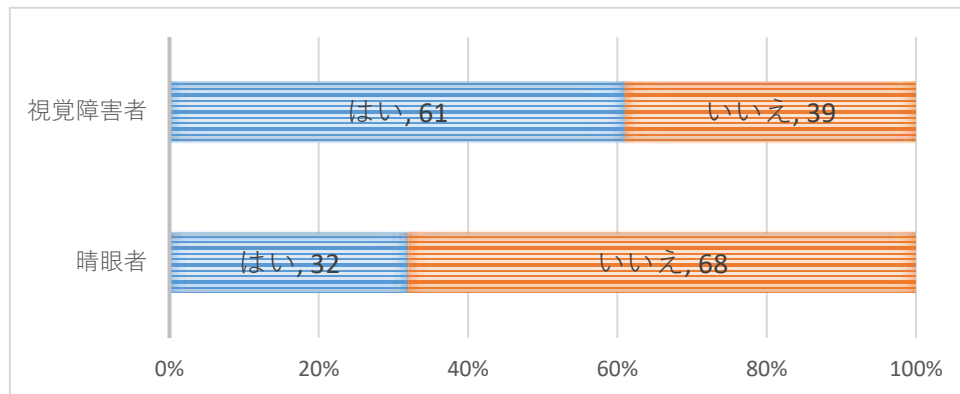


図 110 地下に入る入口に音がなっているのに気づいている割合
(グラフ内の数値単位は%)

5.4 ホームドアについて

(1) ホームドア

ホームドアについては、ホームから線路上への転落経験のある視覚障害者も多く、ホームが危険な場所と認識しているため、知っている割合は 98%と高いが、晴眼者は若干低く 87%となっている(図 111)。今回の晴眼者へのアンケートでは 10 代が多数を占めているが、その世代は 20%がホームドアという言葉を知らない。60 歳以上の年齢層は 92%が知っているため、それぞれの関心事によるものと思われる。

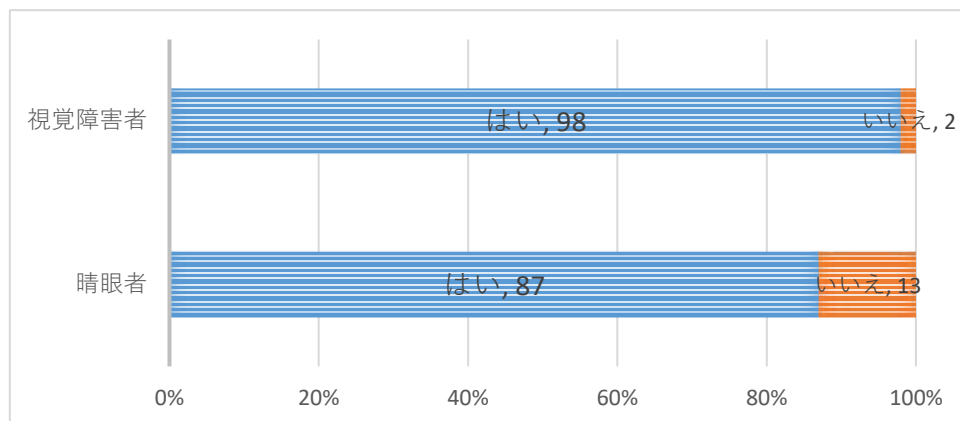


図 111 ホームドアを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

したがって、ホームドアの必要性も視覚障害者は 97%と高く、晴眼者の必要と思う割合 87%よりも 10%高くなっている(図 112)。

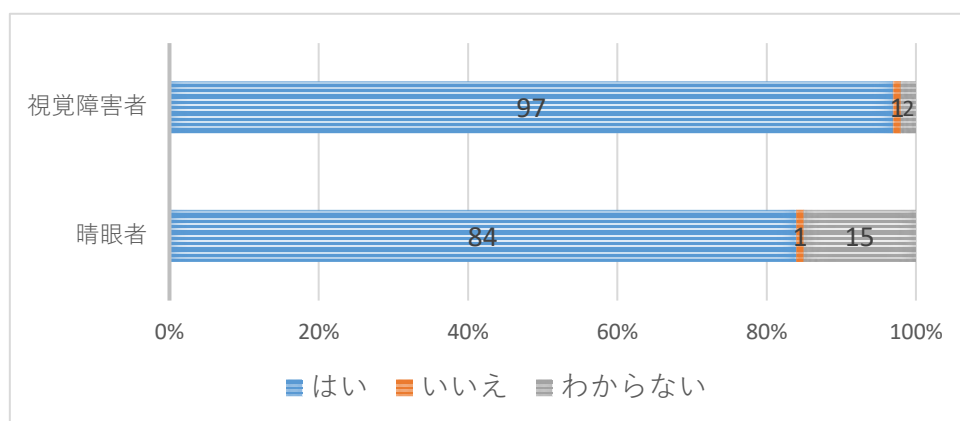


図 112 ホームドアは必要か否かの問いに対する回答割合(グラフ内の数値単位は%)

そして、設置に国・市町村・会社が負担していることも前述の事柄と同様、視覚障害者はほとんどが知っている一方で、晴眼者は低くなっている(図 113)。今回の調査で晴眼者の回答者の年齢層が若いことにも起因している結果と想定される。

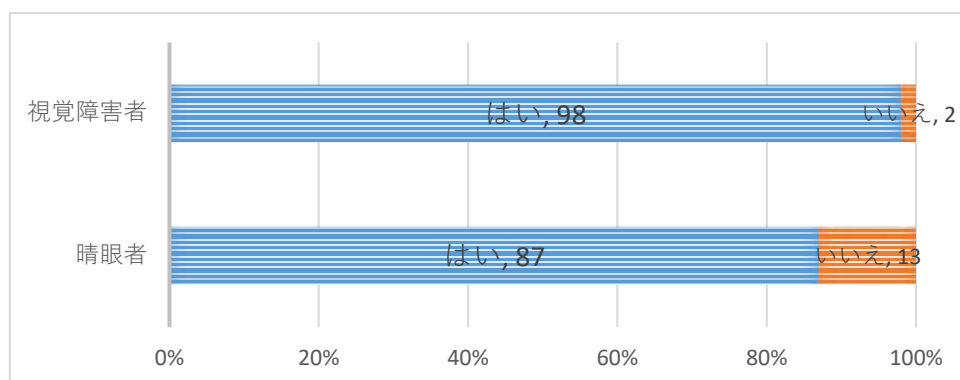


図 113 設置に国・市町村・会社の負担があると知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

設置に対して運賃が上がってもよいかの質問については意見が分かれていて、「金額にもよる」というのが、いずれも 5 割程度であった。ただ、運賃の値上げに否定的な回答は、視覚障害者も晴眼者も 10%強であり、全体としてはホームドア設置に利用者負担を肯定している意見が大半を占めていた(図 114)。

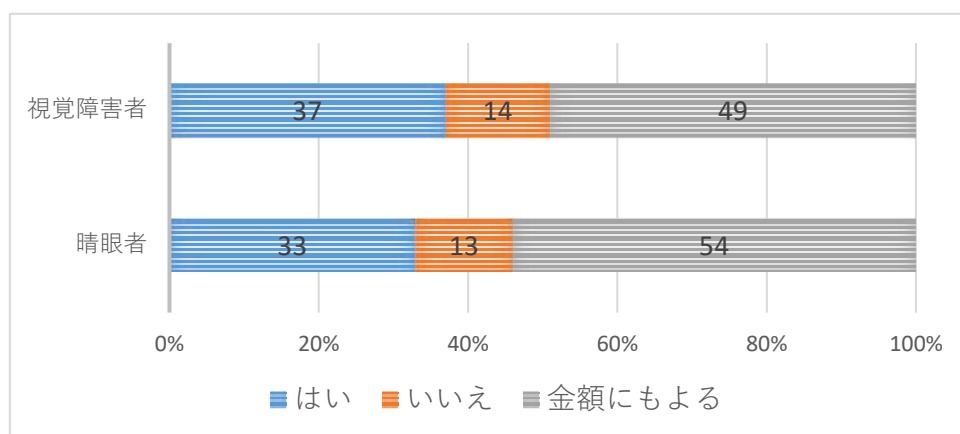


図 114 ホームドア設置に運賃が上がってもよいか否かの考え(グラフ内の数値単位は%)

「値上げの額にもよる」と回答した人たちの目安は、10 円から 20 円で 70～80%を閉めていた(図 115)。若干の値上げであれば、安全・安心の保障のほうを優先したいとの考えが表れている。

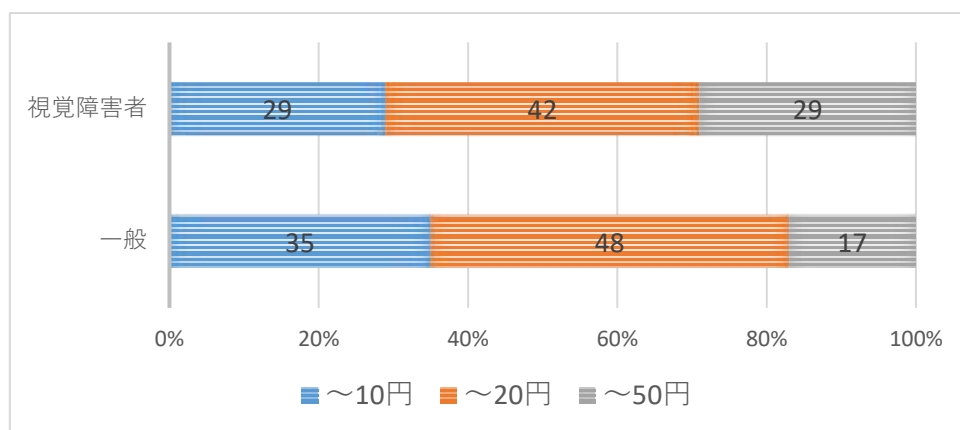


図 115 金額にもよると回答した人の値上がり目安(グラフ内の数値単位は%)

(2) 電車の車両について

1)優先席について

優先席を知っているかについては、視覚障害者が 72%、晴眼者が 98%と晴眼者のほうが多い(図 116)。これは、路線が異なっても視覚的に絶えず確認できている晴眼者と、路線ごとに異なる車両について認識できていない場合の多い視覚障害者との違いと思われる。

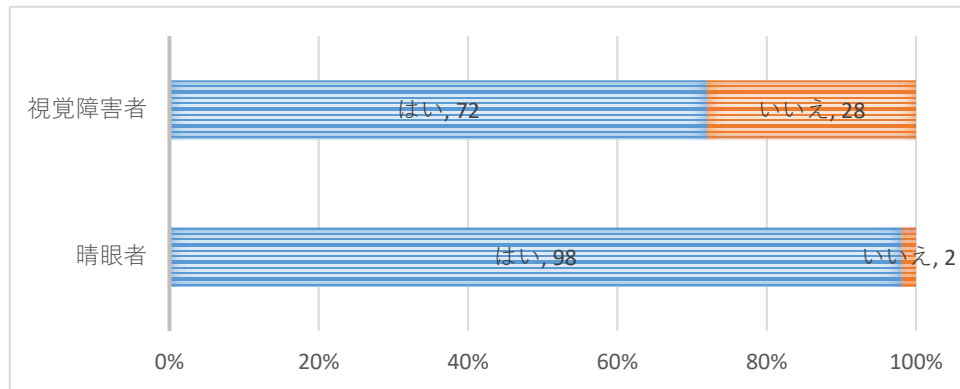


図 116 優先席のある場所を知っているか否かの回答(グラフ内の数値単位は%)

なお、優先席付近で携帯・スマホの電源を切るか否かについての質問に対する回答を比較すると、視覚障害者も晴眼者もほぼ変わりなく、切るのは 2 割強、切らないが 5 割強となっている(図 117)。

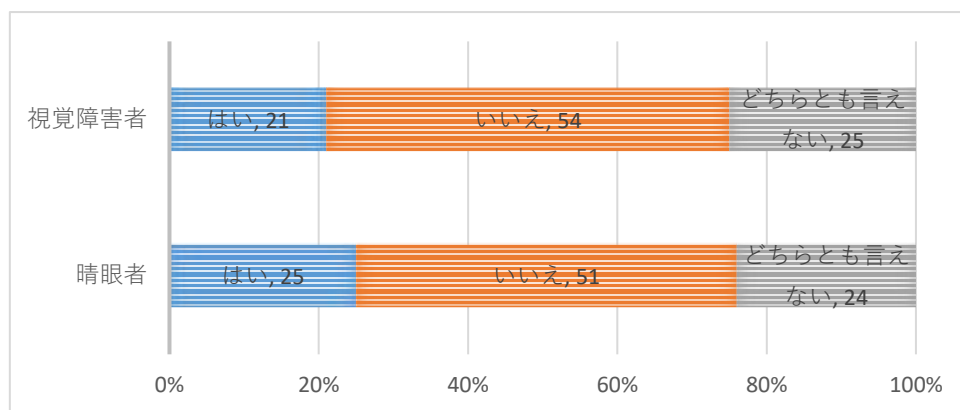


図 117 優先席近辺で携帯・スマホの電源を切るか否かの回答(グラフ内の数値単位は%)

2)女性専用車両について

女性専用車両が何両目にあるかについては、路線によって異なることもあり、晴眼者でも知らない人が 5 割ぐらいを占めていた。いずれにしても視覚障害者のほうが知っている割合が 4 割と少なかった(図 118)。

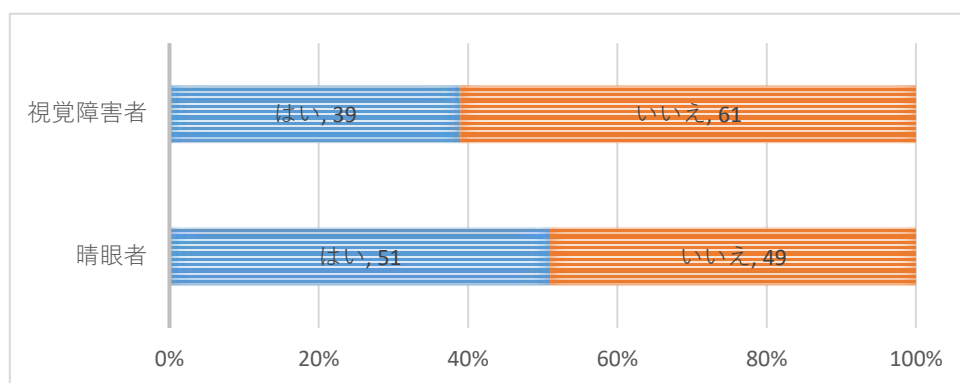


図 118 女性専用車両は何両目か知っているかについての回答(グラフ内の数値単位は%)

3)弱冷房車について

弱冷房車となると、視覚障害者の 78%、晴眼者の 73%が知らないと回答しており、差はみられなかった(図 119)。

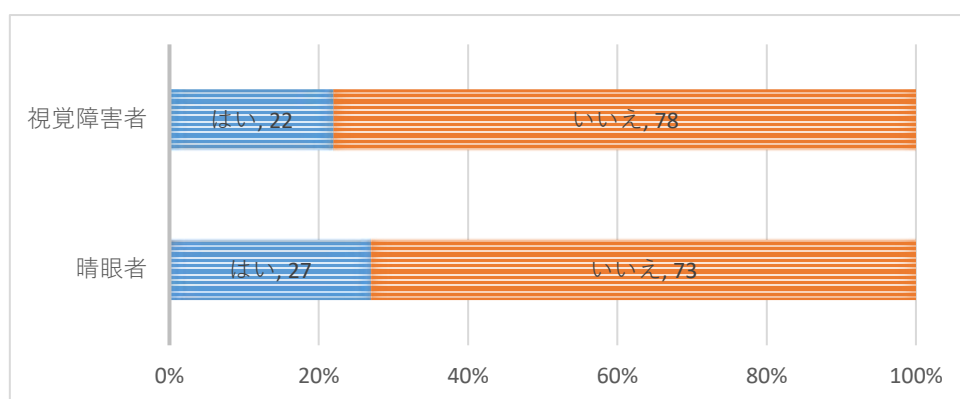


図 119 弱冷房車は何両目か知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

4)車両番号について

車両のドアに付いている車両番号を知っている割合は、視覚障害者も晴眼者もほぼ同じで 7 割が知っているという結果であった(図 120)。

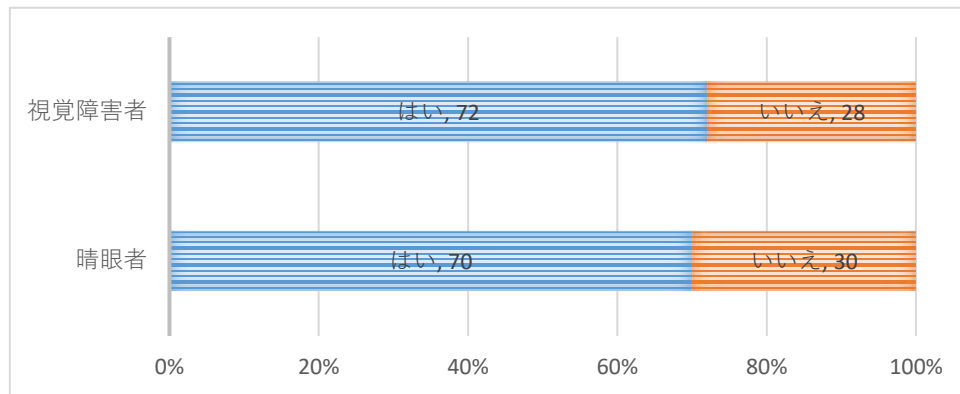


図 120 ドアについている車両番号を知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

5) ドアの開閉ボタンについて

ドアの開閉ボタンを知っている割合は、視覚障害者が 68%、晴眼者が 86%と差があった(図 121)。

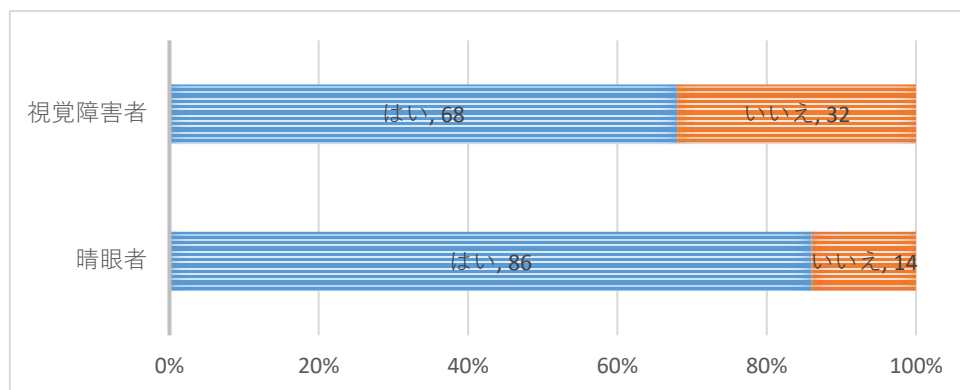


図 121 ドアの開閉ボタンを知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

5.5 自動車について

(1) 静かな車に困っている人について

視覚障害者は、ほぼすべての人が困っていることを認識しているが、晴眼者は 7 割強であり(図 122)、視覚障害者にとっての危険性についてはあまり認識されていないと思われる。

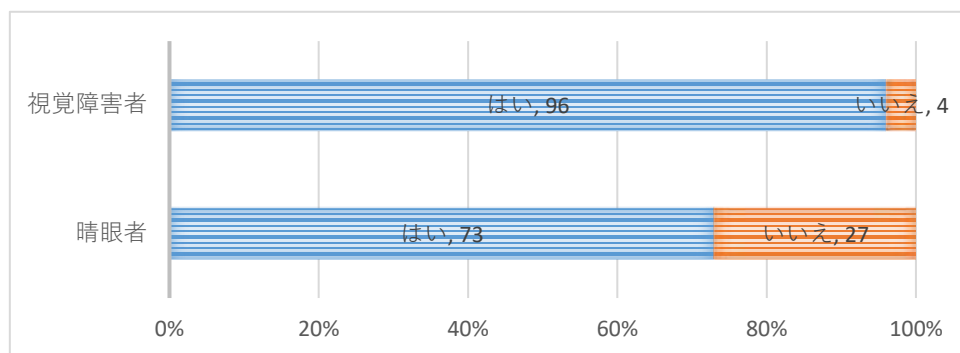


図 122 静かな車に困っている人がいることを知っているか、の回答(グラフの数値単位は%)

この装置については、視覚障害者と晴眼者では差がみられる。晴眼者は 54%が知らないと回答している(図 123)。

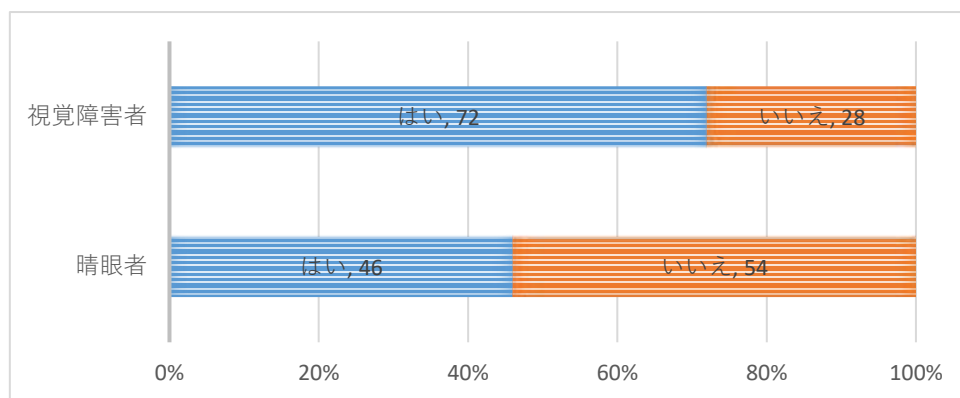


図 123 あえて音を出すようになっていることを知っているか、の回答
(グラフ内の数値単位は%)

静かな車で、音が出るのを止めることができることについても、視覚障害者と晴眼者では明らかに差がみられる。視覚障害者で知らない割合は 44%であるが、晴眼者では 76%と多くは知らない状況である(図 124)。

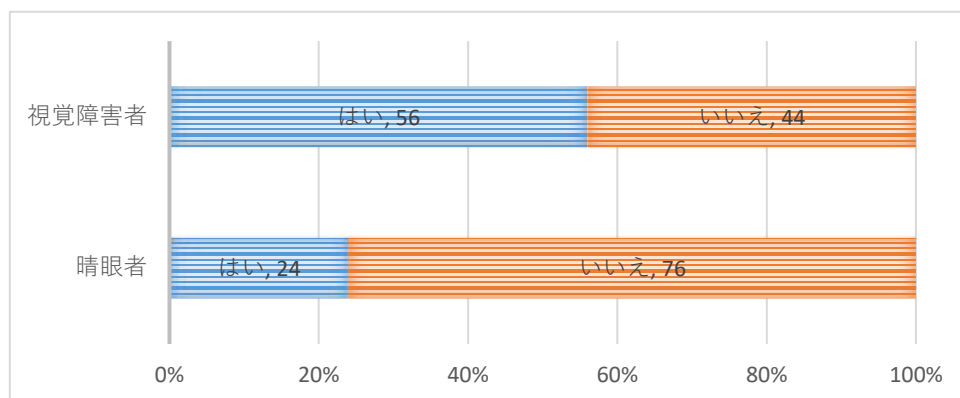


図 124 静かな車で音を止めることができるのを知っているかの回答
(グラフ内の数値単位は%)

車にはある程度音が出たほうがよいと思うと回答しているのは、視覚障害者では 78%であるが、晴眼者では 54%にとどまっており、差が大きくみられる(図 125)。

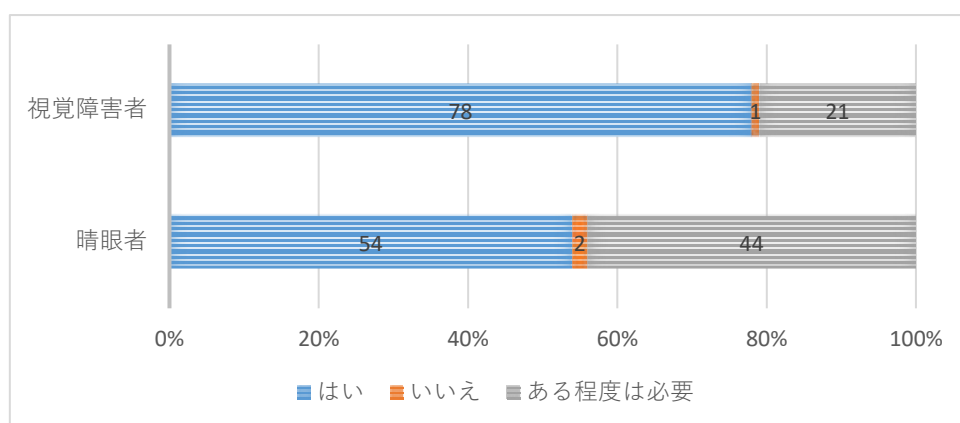


図 125 車にはある程度音が出たほうがよいと思う割合(グラフ内の数値単位は%)

4. 考察

(1)回答者の属性について

・視覚障害者の回答者 183 名は、男性と女性がほぼ半数ずつであり、年齢層も 50 代以下が 43%、60 代以上が 57%と全世代に渡っており、アンケート回答が視覚障害者の外出をめぐる意識、理解などを示していると考えられる。一方、晴眼者の回答者は 593 名であり、男性 38%、女性 62%と女性が多く、また年齢層は 60 代以上が 31%であるが、10 代が 37%を占めており、若い世代の視覚障害者への理解度が結果に影響されていると推測される。

(2)視覚障害者関係の設備などについて

・点字ブロックについては、視覚障害者、晴眼者の区別なくほとんど全ての人が知っていることがわかった。そして、ホームの内方線付きの点字ブロックについてもそれぞれ 8 割が知っていたことから、今日では駅ホームにおける視覚障害者用の敷設設備については認識されていることがわかる。これは、視覚障害者のホームからの転落事故が多発していることから、ホームでの放送などで点字ブロックの内側に立つよう注意が促されたり、障害者に手伝いを呼び掛けたり、視覚障害者に駅員が援助することが知らされたりしていることが、一般乗客にも耳に入ってくることから、構内設備についても認知されているとも考えられる。

今後は、点字ブロックという用語を知っていることにとどまらず、点字ブロックの役割を理解し、点字ブロック上に不用意にものを置かないことや、ホーム上の内方線を含む点字ブロックが視覚障害者の転落の危険を少しでも軽減していることにつながっていることを周知する必要がある。

(3)街で聴こえる音について

・音の出る信号機は、ほぼ全ての人に浸透しており、うるさいと感じている人も少ない。また、駅改札口のピンポンとなる音についても視覚障害者は 97%、晴眼者は 90%が気づいており、視覚障害者にとって外出時における音情報の必要性は理解されていると考えられる。ホームの階段での鳥の声や地下に入る入口の音などは視覚障害者も気づいている割合が少し下がるが、晴眼者はさらに下がっている。晴眼者にとっては環境騒音の中に埋もれてしまい認知されにくいと考えられる。

・横断歩道のエスコートゾーンを知っている割合は視覚障害者の 81%であり、晴眼者は 32%にとどまっている。これは普及率がまだ低いこともあることと晴眼者へのアンケートで 10 代が多く、この世代は 20%しか知らないという実情からきている。したがって、普及度と認識度は関係していると考えられ、今後はエスコートゾーンの敷設を促進していく必要がある。

(4)ホームドアについて

・ホームドアは、視覚障害者にとってはホームでの安全な移動を保障するものとして 97%が知っているが、晴眼者では少し下がって 87%となる。したがって、視覚障害者はほぼ全ての人が必要と考えているが、晴眼者は 84%であり、世代別にみると若い世代よりも高齢

の世代に必要と考える人が多い。これも身体的な状態によって少しずつ認識の違いがあることがわかる。また、ホームドアの設置について運賃が上がってもよいかについて、値上げ率が低ければ許容してもよいという意識がうかがえた。設置負担することに否定的な割合は、視覚障害者 14%、晴眼者 13%であり、他は負担に肯定的か「金額にもよる」と回答している。この結果からは総じてホームドアの設置が行政、会社のための負担では長期間かかるので、利用者負担もわずかならやむを得ないと考えているとみられる。

一般晴眼者もホームからの転落が年間 3 千件を超えており、怪我や死亡事故につながっていることは報道を通じて知られており、ホームドアが最も事故を防ぐ手段であると認識している。

(6)電車の車両について

・優先席の場所は、晴眼者はほぼ全てが知っているが、視覚障害者は 72%となり、把握していない人もみられる。また、優先的での携帯・スマホの電源を切るのはそれぞれ 2 割強い、切らないが 5 割程度になっている。どちらとも言えないと回答している 2 割強も含めれば、7 割以上が切らない傾向にあることがわかる。これは、ペースメーカーの作動は席に座っている程度の距離では影響がないことなどから、車内放送で、優先席付近でスマホなどの電源を切るよう促す放送がされなくなったこともあると思われる。したがって、これまではモラルの問題として乗客間のトラブルにもつながっていたが、放送にて適切な周知がなされればよいのではないだろうか。

(7)自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)について

・静かな自動車に困っている人がいることは、視覚障害者はほぼ全ての人が知っていたが、晴眼者は 73%であり、あえて音を出すようになっていることを知っているのは、視覚障害者は 72%に対して晴眼者は 46%と低く、音の出るのを止めることができることについても視覚障害者が 56%知っているのに対して、晴眼者は 24%に下がる。こうした結果からもわかるように、車にはある程度音が出たほうがよいと思うと回答しているのは、視覚障害者が 78%に対して晴眼者は 54%にとどまっている。視覚障害者が道路における環境音、自動車の移動音というのは重要な移動情報であることについて、さらなる認識が求められる。それと共に、法的な対応が課題解決に向かうと考えられる。

(7)外出時について

・視覚障害者が声をかけられた経験は 91%がもっていた。そして、困った時には声をかけてほしいが 69%であり、いつでもかけてほしいが 16%であることから、通行人の援助については期待していることがわかる。他方、声をかけられたときに断ったことがあるかについては、「ある」が 64%であり、その理由は、「わかっている場所だから」「急いでいたから」などであった。

・晴眼者へのアンケートでは、街や駅で視覚障害者を見かけたことがあるとの回答は 96%であり、大方の人たちは視覚障害者が外出していることを認識しているが、声をかけられるかという問いに 43%が「はい」と回答しており、少しの積極性が必要なことをうかがわせ

る。声のかけ方を知っているのは 52%であるが、実際に声をかけているのは 41%であり、断られたことがある経験をしているのは 18%であった。断られた人たちに「次にまた声をかけようと思うか」の問いに、わずかながら 13%が「いいえ」と答えており、その理由として「歩けるなら手伝う必要はないと思うから」18 件、「人の気持ちに背かれたから」16 件、「断り方が失礼だったから」6 件などとなっている。視覚障害者が必要としている時と通行人が声掛けをするタイミングが一致していないことがあることがわかる。しかし、視覚障害者としては困った時などに声をかけてほしいと思っているので、そうでないタイミングで声掛けを受けた場合も次につながるような断り方をするよう心掛けることが必要だと思われる。

以上、アンケート結果から、視覚障害者の外出時のさまざまな事柄について、その認識度、意識などを把握すると、晴眼者の各世代に対して視覚障害者への理解をさらに求めていく必要があることと、視覚障害者が積極的に外出しながらその経験を社会に啓発すること、また関係行政機関、鉄道会社に自らも協力していくことを表明しつつ設備改善を働きかけていく必要があることなどがわかった。

添付資料

- (1) 視覚障害者対象のアンケート調査用紙
- (2) 一般晴眼者対象のアンケート項目用紙

(1) 視覚障害者対象のアンケート調査用紙

I 基本事項

1-1 あなたの年代をお知らせください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代
以上

1-2 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

1-3 視覚障害手帳の等級について

1. 1級 2. 2級 3. 3級 4. 4級 5. 5級 6. 6級 7. 手帳は持っていない

1-4 職業はなんですか？

1. 中・高・大学生 2. 専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業 6. 専業主婦
7. 無職 8. その他

II あなたの外出方法について伺います

2-1 一人で外出ができますか？

1. 自由に外出できる 2. 一人では外出できない

2-2 一人で外出するときに何を使用していますか？

1. 白杖 2. 盲導犬 3. 白杖や盲導犬は使わない 4. ソニックガイドのような
歩行支援機

2-3 一人で交通機関を利用できますか？できるもの全てお答えください。

1. 電車 2. バス 3. タクシー 4. モノレール 5. 路面電車（江ノ電） 6. その他

2-4 同行援護制度を利用していますか？

1. はい 2. いいえ

2-4-1 いいえと答えた方に伺います。同行援護制度を利用しない理由は何ですか？

1. 制度を知らない 2. 使いたくない 3. 他の制度を利用している。

2-5 同行援護制度以外で外出する場合、どのような人的支援を受けていますか？（複数
回答可）

1. 家族 2. 移動支援 3. ボランティア 4. 視覚障害の無い友人 5. 視覚障害のある
友人 6. その他

III 視覚障害者関係施設

3-1 点字ブロックを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

3-2 ホームの内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブ
ロックをしていますか？

1. はい 2. いいえ

3-3 点字ブロックや内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き

点字ブロックの色が黄色だと言うことを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

3-4 横断歩道にある「エスコートゾーン」を知っていますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

3-5 歩道と車道の段差は必要だと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

IV 街で聞こえる音について

4-1 音の出る信号機を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

4-2 知っている方に伺いますが、これらの音をうるさいと思いますか？

1. はい 2. いいえ

4-2-1 はいと答えた方は、これらの音についてどのように思いますか？

1. 必要だったら仕方ない 2. 大きさにもよると思う 3. 音は必要ない

4-3 改札口で鳴っている「ピンポン」と鳴る音に気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

4-4 ホーム上の階段の鳥の声に気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

4-5 地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

V ホームドアについて

5-1 ホームドアを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

5-2 ホームドアは必要だと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

5-3 ホームドアは一般の人にも役立つと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

5-4 ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していることを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

5-5 ホームドア設置のために運賃が上がってもかまいませんか？

1. はい 2. いいえ 3. 金額にもよる

5-6 金額にもよると答えた方は、いくらまでなら運賃が上がってもよいですか？

1. ～10円 2. ～20円 3. ～50円

VI 電車の車両について伺います

6-1 「優先席」のある場所を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-2 優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切りますか？

1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

6-3 女性専用車両は何両目か知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-4 弱冷房車は何両目かを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-5 ドアについている車両番号を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-6 ドアの開閉ボタンについて知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-7 ドアの開閉ボタンの位置はわかりますか？

1. はい 2. いいえ

6-7-1 いいえと答えた方は、どのように対応していますか？

1. 自分で見つけている 2. 人に頼んでいる 3. 車掌さんに頼んでいる 4. 駅員にお願いしている 5. その他（ ）

VII 自動車（ハイブリッドカー・電気自動車）について

7-1 静かな車ができて困っている人がいるのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7-2 静かな車があえて音を出すようになっているのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7-3 静かな車で音が出るのを止めることができるのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7-4 車にはある程度の音が出た方がよいと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. ある程度は必要

VIII 外出した時に

8-1 声をかけられたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

8-2 声をかけてほしいと思ったことはありますか？

1. 困ったときにはかけてほしい 2. いつでもかけてほしい 3. どちらとも言えない

8-3 声をかけられたときに断ったことはありますか？

1. はい 2. いいえ

8-4 8-3で断った人に伺いますが、断った理由は何ですか？複数回答可

1. わかっている場所だから 2. 急いでいたから 3. その他（ご自由にお書きください）
ご協力ありがとうございました。

(2)一般晴眼者対象のアンケート用紙

I 基本事項

1-1 あなたの年代をお知らせください

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上

1-2 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

1-3 職業はなんですか？

1. 中・高・大学生 2. 専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業
6. 専業主婦 7. 無職 8. その他

II 障害者全般について伺います

2-1 次の中で、見たり・聞いたり・体験したことがあるものをあげてください
(複数回答可)

1. 車いす 2. 電動車いす 3. 白杖 4. 手話 5. 要約筆記
6. 松葉杖 7. T字杖 8. ロフストランド杖 9. 義足 10. 義手
11. 義眼 12. 盲導犬 13. 聴導犬 14. 介助犬

III 視覚障害者関係施設

3-1 点字ブロックを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

3-2 ホームの内方線(点字ブロックの手前についている細い凸状のライン)付き点字ブロックを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

3-3 点字ブロックや内方線(点字ブロックの手前についている細い凸状のライン)付き点字ブロックの色が黄色だということを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

3-4 横断歩道にある「エスコートゾーン」を知っていますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

3-4 歩道と車道の段差は必要だと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

3-5 点字ブロックの上に物や自転車を置いてはいけないことを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

IV 街で聞こえる音について

4-1 音の出る信号機を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

4-2 知っている方に伺いますが、これらの音をうるさいと思いますか？

1. はい 2. いいえ

4-2-1 はいと答えた方は、これらの音についてどのように思いますか？

1. 必要だったら仕方ない 2. 大きさにもよる 3. 音は必要ない

4-3 改札口で鳴っている「ピンポン」と鳴る音に気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

4-4 ホーム上の階段の鳥の声に気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

4-5 地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいていますか？

1. はい 2. いいえ

V ホームドアについて

5-1 ホームドアを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

5-2 ホームドアは必要と思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

5-3 ホームドアは一般の人にも役立つと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. わからない

5-4 ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していることを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

5-5 ホームドア設置のために運賃が上がってもかまいませんか？

1. はい 2. いいえ 3. 金額にもよる

5-6-1 金額にもよると答えた方は、いくらまでなら運賃が上がってもかまいませんか？

1. ～10円 2. ～20円 3. ～50円

VI 電車の車両について伺います

6-1 「優先席」のある場所を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-2 優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切りますか？

1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

6-3 女性専用車両は何両目か知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-4 弱冷房車は何両目かを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-5 ドアについている車両番号を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6-6 ドアの開閉ボタンについて知っていますか？

1. はい 2. いいえ

6－7 ドアの開閉ボタンの位置はわかりますか？

1. はい 2. いいえ

6－8 ドアの開閉ボタンの位置がわからない方に気づいたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

6－8－1 はいと答えた方に伺います。その時あなたはどうしましたか？

1. 代わりに押してあげた 2. 場所を教えた 3. 何もしなかった

VII 自動車（ハイブリッドカー・電気自動車）について

7－1 静かな車ができて困っている人がいるのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7－2 静かな車があえて音を出すようになっているのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7－3 静かな車で音が出るのを止めることができるのを知っていますか？

1. はい 2. いいえ

7－4 車にはある程度の音が出た方が良いと思いますか？

1. はい 2. いいえ 3. ある程度は必要

VIII 視覚障害者に対して

8－1 街や駅で視覚障害者を見かけたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

8－2 見かけたときに声をかけられますか？

1. はい 2. いいえ

8－3 声のかけ方を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

8－4 見かけたときに声をかけたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

8－5 声をかけたときに断られたことがありますか？

1. はい 2. いいえ

8－6 8－5ではいと答えた方に伺います。次にまた声をかけようと思いますか？

1. はい 2. いいえ

8－7 8－6でいいえと答えた方にうかがいます。その理由はなんですか？

1. 人の気持ちに背かれたから 2. 断り方が失礼だったから

3. 歩けるなら手伝う必要はないと思うから

4. その他 ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

特定非営利活動法人 神奈川県視覚障害者福祉協会
〒252-8540 神奈川県座間市入谷東 3-55-1 C-102 号
神奈川ライトハウス内
理事長 鈴木 孝幸
電話: 046-205-6040
FAX: 046-205-6971
e-mail: jimmu@npo-kanagawa.org

調査協力: 神奈川工科大学 小川研究室